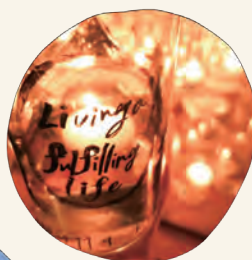


ダブルホーム



地域と共に創る「新たなふるさと」

2024年度 活動報告書



新二郎 & 新二郎 Jr.



真の強さを学ぶ。

新潟大学

NIIGATA UNIVERSITY

はじめに

新潟大学では、2007年度からダブルホーム活動をスタートし、2011年度からは新潟大学独自のプログラムとして継続しています。ダブルホームは、学生たちが所属する学部・学科を「第一のホーム」とするのに対して、文系・理系・医歯系の区分を越えて「第二のホーム」を運営し、地域活動をとおして人間としての成長を目指すプログラムです。本プログラムは全学に開かれ、学部や学年を越えたチーム活動、その学生たちの主体的取り組みを支援する教職協働、学生が参加時から卒業まで活動を継続できる準正課活動であることが大きな特徴です。近年は、地域や仲間の思いを大切にしながら、正解のない地域課題に学生・教員・職員によるチームで取り組むことでシチズンシップ（社会に対する責任感）やチームワーク力を育成していくことに重点を置いています。

スタートから17年目を迎えた2024年度は、学生395人、教職員63人が参加しました。地域の皆様のご理解とご協力を賜り、地域活動を活発化させることができました。12月14日には、ダブルホームの意義と未来を共に考えるシンポジウムを対面形式で開催しました。学内はもとより学外の皆さまを含めて総勢246人も参加があり、参加者のダブルホーム発展への熱意を実感する一日となりました。

このたび、各ホームが1年間の活動の振り返りについてまとめた報告を編集し、2024年度の活動報告書として刊行いたします。ご協力くださった全ての皆さまに感謝いたします。

新潟大学 教育基盤機構 未来教育推進コア グローカル共修ユニット ダブルホーム支援室

目次

はじめに	01
------	----

ダブルホームとは	
2024 ダブルホーム活動地域マップ	02

2024 年度ダブルホーム活動一覧	03
-------------------	----

2024 年度ダブルホーム活動の概要	
地域活動中間報告会	
オープンキャンパス「ダブルホーム情報館」	04

第16回 ダブルホームシンポジウム	
ダブルホーム科目とマイナー「ふるさと共創学」	
ダブルホーム・マイスターの認定	05

各ホームの報告	06
---------	----

06	A	blange
08	B	いろはの風
10	C	かしわっこ
12	D	さんせっと
14	E	アース・アース
16	F	るるに
18	G	暖
20	H	ほたる
22	I	あい
24	K	かもろに
26	L	輪～つながる～
28	N	ねすと
30	Q	Sun Q
32	R	あっとほーむ
34	S	しいたけ
36	T	ほりごたつ
38	U	まほろば
40	V	かわせみ

ダブルホームとは

ダブルホームは、地域や仲間の思いを大切にしながら、正解のない地域課題に学生・教員・職員によるチームで取り組むプログラムです。地域の思いと向き合う中で「自分たちに何ができるか」をチームで考え、活動を計画・実践・省察することで、これからの社会生活に必要なシチズンシップやチームワーク力を育みます。

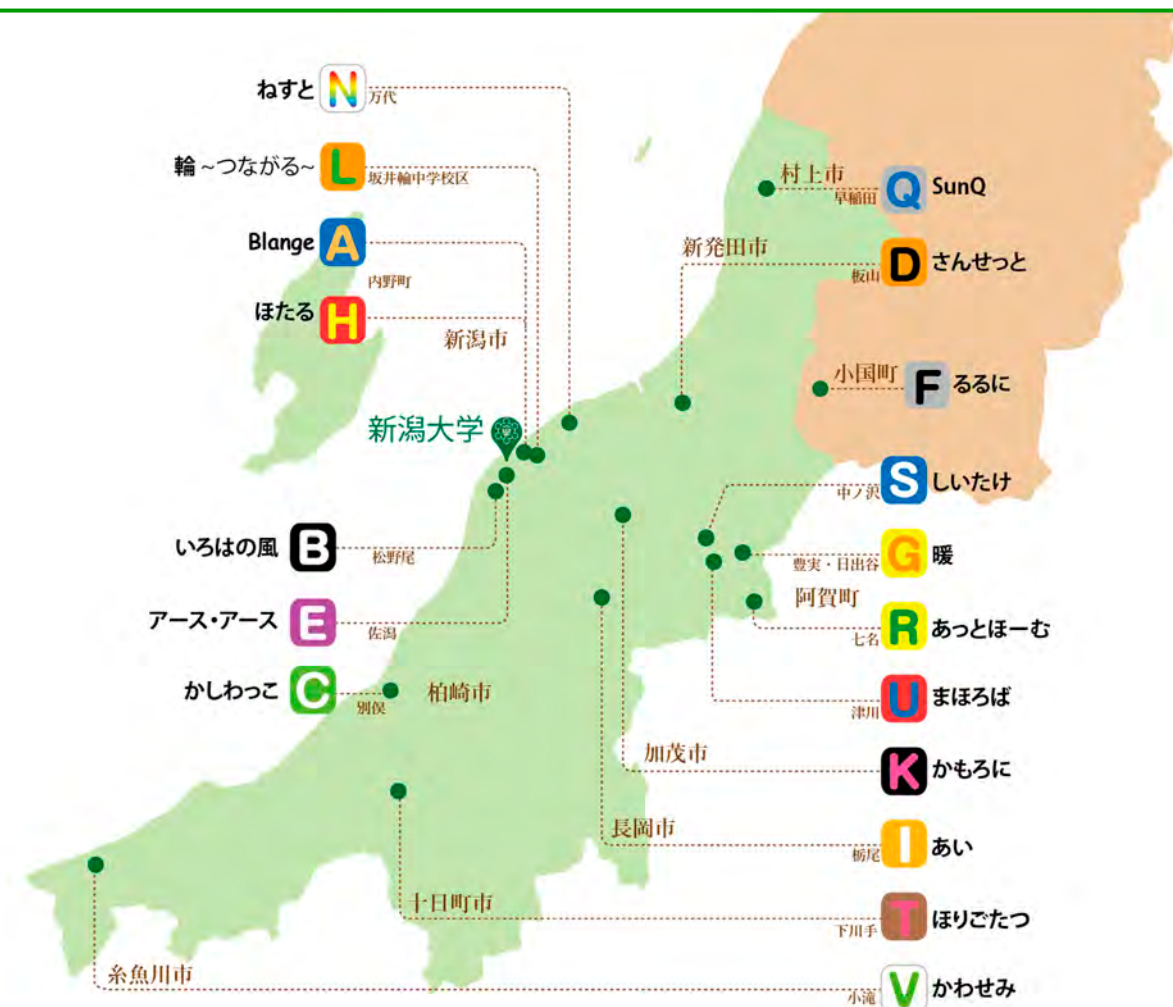


専門分野の学問を学ぶ学部・学科を「第一のホーム」とするのに対し、総合大学の特性をいかし、専門の枠を越えて学生たちが集まり、学び合う場が「第二のホーム」です。



多様な学問分野・領域の学生が教職員とともに「第二のホーム」を運営し、地域と連携しながら活動を行います。ともに地域課題に取り組む中で人間性を育みます。

2024 ダブルホーム活動地域マップ



2024年度 ダブルホーム活動一覧

ホーム	ホーム名 活動テーマ	活動地域	活動内容
	blange うちのつながりプロジェクト	新潟市西区 内野町 大学南	・梅プロジェクト ・まち歩き ・南心会定例会参加 ・新大ランド ・地域行事手伝い
	いろはの風 松野尾との絆をつなぐ	新潟市西蒲区 松野尾地区	・まち歩き ・田舟乗船体験 ・夏休み学習会 ・運動会 ・クリスマス会 ・豆まき会 ・知と技と運の競技会
	かしわっこ Come on！イベントで季節を感じる別保	柏崎市 別保地区	・地域散策 ・川遊び ・星空音楽会 ・稲刈り ・コミセン祭り ・スノーフェスティバル ・べつまたを語ろうの会
	さんせっと 板山の方との交流、そして魅力の発信	新発田市 板山地区	・田植え ・夢祭り ・村歩き ・稲刈り ・キッズサマースクール ・収穫感謝祭 ・ほやほや
	アース・アース 燃えよ赤塚魂、輝け佐潟愛	新潟市西区 赤塚地区	・ハス移植作業 ・灯籠づくり ・佐潟まつり出店 ・赤塚まち歩き ・ハーブ園訪問 ・白鳥観察会
	るるに つながる ひろがる おぐに	山形県小国町 玉川地区	・萱野峠散策・看板設置 ・クロモジオイルづくり ・新大祭出店 ・しめ縄づくり ・さいず焼き ・雪堀
	暖 Gホーム(学生)を主体に日出谷・豊実とより密接な関係性の構築	阿賀町日出谷 豊実地区	・山菜祭り ・阿賀町探索 ・新大祭出店 ・キャンドルナイト
	ほたる Uchi knowing～内野ともっと交流を～	新潟市西区 内野町	・まち歩き ・新大ランド ・新川音楽祭
	あい 枋尾の中心であいを叫ぶ	長岡市 枋尾地区	・蛍観察 ・トチオノアカリ ・とちお祭り手伝い ・ユニホッケー交流会 ・郷土料理体験会 ・遊雪祭り
	かもろに 加茂ってすごいカモ！プロジェクト	加茂市	・まち歩き ・小学生夏休み企画 ・中高生新大ツアー ・ナイトバザール ・カモフリマ
	輪～つながる～ 地域とつくる大きな輪・つながる	新潟市西区 坂井輪中学校区	・子ども食堂(春・夏・冬) ・まち歩き ・花植え事業
	ねすと 万代からはじまる・つなげるプロジェクト	新潟市 万代地区	・街歩きツアー企画 ・NSTまつり
	SunQ 早稲田に感謝を伝えよう～	村上市 早稲田地区	・お花見 ・三吉様参拝 ・しめ縄作り ・天皇様(子ども神輿) ・収穫祭 ・敬老会 ・クリスマスプレゼント大作戦 ・節分会
	あっとほーむ そば作りを通じた地域との交流と絆	阿賀町 七名地区	・七福の里祭り ・そばの栽培 ・そば祭り手伝い ・地域あるき
	しいたけ Oh！待ちきれない！ 中ノ沢と元気になるSホーム！	阿賀町 中ノ沢地区	・観桜会 ・しめ縄づくり ・かや刈 ・ニジマス釣り
	ほりごたつ 十日町×しちべえ×美人林 ＝ほりごたつ	十日町市 松之山 下川手集落	・湿地米しちべえの栽培(苗代作り－田植え－草取り －稲刈り－稲架掛け－脱穀)、販売 ・ホタル観賞 ・道普請(春・夏・秋) ・さいの神
	まほろば いきいきと輝く津川地区	阿賀町 津川地区	・つがわ狐の嫁入り行列 ・空き家プロジェクト ・風舟ブックマルシェ ・留学生・高校生との交流
	かわせみ 地域の方々との深い交流と小滝地区の更なる魅力発信	糸魚川市 小滝地区	・高浪まつり ・家庭訪問 ・笹寿司作り ・新大祭出店 ・発電所巡り

2024 年度 ダブルホーム活動の概要

4月		三菱みらい育成財団助成 リ・エントリー採択
	4～10	新入生ダブルホーム参加相談会 (対面相談会、写真展など)
	9	「ダブルホーム活動入門Ⅰ」開始
	20	ダブルホーム大説明会
5月	10	各ホームへ新加入生合流
	28	第1回学生懇談会
6月	10	「ダブルホーム活動入門Ⅱ」 & 地域実習開始
7月	20	地域活動中間報告会
8月	8・9	オープンキャンパス 「ダブルホーム情報館」
9月		
10月	19・20	新大祭 (C、F、G、Q、V ホームが出店)
11月	3	新大祭 in 古町ルフル出展
	15	ダブルホーム講演会 1
12月	5	第2回学生懇談会 ダブルホーム講演会 2
	14	第16回ダブルホームシンポジウム 「Home Crossing ～未来を創る集い～」 ダブルホーム・マイスター認定式
1月		
2月	7	第3回学生懇談会
	27	2024 年度活動報告書原稿提出
3月	25	2025 年次活動計画書提出 ダブルホーム広報部発足 新入生対象 Zoom 相談会



地域活動中間報告会

2024 年 7 月 20 日 13:00～16:30
総合教育研究棟 E260、B 棟 2・3 階

実行委員代表 靱山 愛夢実 (G ホーム 農学部 2 年)

今年度の地域活動中間報告会では、新加入生が活動を通して感じた地域の良さや今後地域でやってみたいことを発表し、上級生が新加入生の意見も踏まえて練り直した今年度の活動計画について発表しました。昨年度は、新加入生が地域実習を通して感じた地域の良さや気になるものを発表する「地域実習報告会」でしたが、今年度は既存の学生も含めて発表し、ホーム内の関わりをより増やすことができるよう、名称を「地域活動中間報告会」に変更しました。どのホームも新加入生と既存学生が意見交換を行い、関わり合いながら準備したことが伝わる発表で、今後の活動に期待が持てました。ホーム全体で今年度の活動の見通しを持つことができましたと感じています。



オープンキャンパス ダブルホーム情報館

日時：2024 年 8 月 8 日 (木) 10:00～14:00、9 日 (金) 10:00～15:00
会場：附属中央図書館 1 階ライブラリーギャラリー

実行委員代表 富田 明良 (D ホーム 法学部 2 年)

地域づくりに興味のある高校生に対してダブルホーム活動の内容や魅力を周知することにより、大学でできることの幅広さを理解してもらうことを目的に今年度の「ダブルホーム情報館」を実施いたしました。両日とも昨年に引き続き対面で実施することができ、来場者数も 2 日間で 200 名を超すビッグイベントとなりました。分野横断で活動する本学独自の取り組みの数々は来場した高校生にとって強く印象に残ったのではないかと思います。また、本イベントでは実行委員のほか各ホームより約 80 名の有志学生にもご協力いただき、活動内容の説明やビラ配りによる宣伝を通してダブルホームに対する意欲を高めてもらう機会になったと感じています。オープンキャンパスを通して高校生、在学生ともに「第二の故郷が生む学びと楽しさ」について考えてもらうきっかけになれば幸いです。



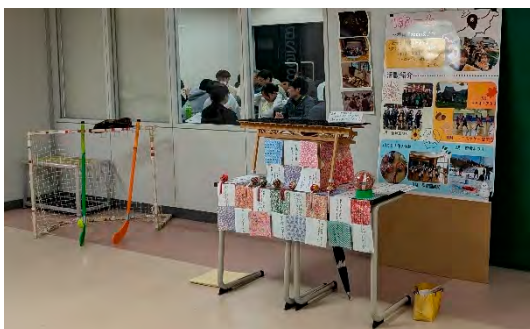
第16回 ダブルホームシンポジウム

日時：2024年12月14日（土）13:00～17:00

会場：総合教育研究棟 E260・B棟2・3階

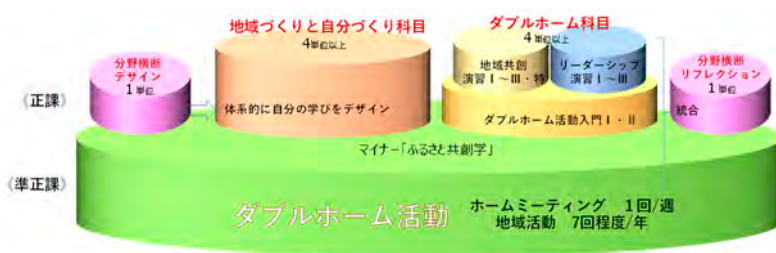
実行委員代表 三上 夏奈（Kホーム 法学部2年）

「このシンポジウムが、ホームを越えた話し合いを通して全ホームの『交流点』となり、『活動地域の未来を想像する』きっかけになってほしい」と実行委員でイメージを固め、「Home Crossing～未来を創る集い～」というテーマを設定しました。これに基づき、構成は第1部は「全体座談会」、第2部は「ホーム座談会」、第3部は「報告会」としたほか、各ホームの年間活動について発信するポスターブースを設けたことで、所属ホーム以外のホームを知る機会をつくりました。話し合いを中心とした例年にはない内容でしたが、参加者の皆さんの中で新しい視点やアイデアが生まれる一助となれたのであれば幸いです。



ダブルホーム科目とマイナー「ふるさと共創学」

ダブルホームでは準正課の地域活動、ホーム運営、ダブルホーム全体のイベント企画等における学生たちの学びを深めるために正課の授業科目を開講しています。2022年度に開設したダブルホームのマイナーパッケージ「ふるさと共創学」により学生たちの準正課と正課における学びの往還を担保するしくみができました。ダブルホームの地域活動をとおして地域づくりに関心を持ち、地域の思いに寄り添いながら地域や社会における課題を探究し、解決に向けて積極的に取り組む人材を育成することを目的としました。12単以上でマイナー修得となり、このうち4単位以上必要とされるダブルホーム科目は、ダブルホーム活動入門Ⅰ・Ⅱ、地域共創演習Ⅰ～Ⅲb、特別演習（岩室）（刈羽&東京）、リーダーシップ演習Ⅰ～Ⅲの18科目です。2025年度は、岩室と刈羽に加えて三条と古町、計4フィールドを対象とする地域共創特別演習を開講します。



ダブルホーム・マイスターの認定

ダブルホームでは活動に熱心に取り組み、優れた以下の3つの力を発揮して卓越した活動実績がある学生をダブルホーム・マイスターとして認定します。



《ダブルホーム・マイスターに求められる3つの力》

1. シチズンシップ：よりよい社会実現に向けた責任感や行動力
2. チームワーク力&リーダーシップ：課題解決のために多様な人たちを巻き込み、協働していく力
3. 課題探究・解決力：地域社会における課題を見出し、解決していく力

これまでに12名が認定され、12月14日のダブルホームシンポジウムにおいて認定証授与式を行いました。



ホームの概要

メンバー構成： 1年生7人、2年生6人、
3年生5人、4年生7人、
修士以上1人、教員2人、
職員1人

活動地域： 新潟市西区内野・大学南

関連団体： 大学南が丘南心会

ミーティング： 平日昼休み週1回程度

(テスト期間を除く)

成果物・制作物



大学南が丘夏祭り

手作りの梅サイダーを販売しました。



贈呈式・試飲会

みんなで作った梅シロップは
とてもおいしいです！

活動目的と概要

A ホームは五十嵐キャンパス近くの内野・大学南が丘地域を拠点としています。徒歩で移動できる距離なので活動回数が多く、地域の方との交流が盛んです。「新潟大学に近い活動地域」という特徴がある A ホームだからこそ、新潟大学と活動地域を結ぶかけ橋になることを目指した活動をしています。

主な活動は大学構内で収穫した梅をシロップにして販売や贈呈をする「梅プロジェクト」です。

活動目標の達成状況

【地域活動について】

1. 今年度の活動目標

目標の1つは「地域とホームメンバーがお互いに力を享受し合うこと」でした。地域の方から地域への想いを聴いたり助言をいただいたりする中で、学生は主体的に行動する場面が増えました。一方の A ホームも子ども向けのイベントを開催したり内野まつりでお神輿を担いだりするなどを通して、学生ならではのエネルギーを地域に提供することができたと思います。

そしてもう1つの目標は「A ホームが新潟大学と活動地域を結ぶかけ橋になること」でした。今年開催された大学南が丘夏祭りは新潟大学のサークル企画がありませんでした。その影響があるのか、大学生や若者の参加が例年と比べて少なかったです。このことから A ホームは新潟大学と活動地域をつなぐ力が不足していることを実感させられました。

2. 今年度の具体的な活動プラン

梅プロジェクトの活動を円滑にするために、大まかな梅の実の収穫量を求めたり梅サイダーの希釈率を数値化したりすることは実現できました。しかし、計画していた活動地域のまち歩きマップの更新は実行することができませんでした。

【ホーム運営について】

1. 活動とミーティングの学生参加者を増やす

今年度もタームごとに実施曜日を変更することで学生の参加率向上を試みました。序盤は良かったもののだんだんと学生参加者は固定化され減ってしまいました。

2. ミーティングの内容を明確にする

あらかじめミーティングの議題を決めてメンバーに共有したことで、話し合いの進行が以前よりも円滑になりました。

3. 学生間の親交を深めて系の孤立を防ぐ

係の中だけで活動内容を共有していたため係が不在だった活動の当日に、他の学生は勝手がわからず戸惑ってしまいました。また事前準備の不足で当日の進行が滞ったり地域の方にご心配をお掛けしたりするなど反省点が多々ありました。

4. 地域とメンバーがお互いを認識できるようにする

地域の方々とホームメンバーのプロフィール帳を作成しました。お互いの顔と名前や出身地、趣味などの情報を載せたことで話題に繋がり親交を深めることができたと思います。

活動を通して学んだこと

私が今年の活動を通して学んだことは、地域に対する地域の方々の想いが強いことです。地域行事を存続させたいという皆さんの想いが伝わりました。来年はもっと地域での活動に力を入れたいです。また、後輩ができる年でもあるので、先輩を見習い積極的にサポートしていきたいです。

吉田 菜美（農学部1年）

今年度の活動では、夏祭りや餅つき大会を通して幅広い年齢層の方々と交流することができました。地域行事に参加したことで、地域の方々の様々な声を聞くことができたとともに、内野地域に住む人々の温かさを実感しました。

畝 くるみ（農学部3年）

イベントが一昨年から開催できるようになり、私たちも月1回の定例会に参加し、地域の方々と交流を深めてきました。それを通して地域の方々が学生に期待を寄せていることを実感し、交流を重ね信頼関係を築く大切さを学べました。今後もこのつながりを大切にしたいです。

碓氷 敬大（教育学部2年）

各活動やシンポジウムを通じ、「A ホームをさらにレベルアップさせたい」というホームの熱を感じる1年でした。今後も笑顔の絶えないホーム、地域であり続けることを、心から願っています！ダブルホーム・マイスターもいただくことができ、嬉しい限りです！みなさんありがとう！

渡辺 丈一郎（工学部4年）

今後に向けて

①梅プロジェクト

新潟大学に自生している梅の木から収穫をしています。Aホームにとって大切な梅の木を守り育てるために、肥料や水やりなど適切な管理を徹底していきたいと考えています。

また今年度は学業が多忙で参加が困難だった梅プロジェクト係が多かったです。このことから梅プロジェクト係の人数を増やすことにしました。さらに活動当日の流れを全員に共有することで、係に任せなくても学生一人一人が基本的な活動内容を理解して行動できるようにしていきたいと思います。

②学生同士の交流

Aホームでは普段の活動以外で交流会がありません。そこで数年前も利用していた大学のバーベキュースペースを借りてホーム内の交流会を開くことにしました。この機会に学生同士のつながりもつくることで、Aホームがメンバーにとっての居場所になり活動参加率が向上することを期待しています。

③活動内容の共有

これまであらゆる資料の保管場所が多く情報が散乱していました。そこで次年度からはミーティングの記録や活動資料共有としてTeamsアプリを利用することにしました。

活動地域より

今年度もさまざまな地域の行事にご参加いただきありがとうございました。その中で皆さんの笑顔が見られたことがよかったです。特に内野まつりでは、重い神輿を担いで疲れているはずなのに、笑顔が溢れていたのが印象的でした。これからも楽しい交流ができることを願っております。

新潟市西区大学南 南心会 石田 知明 様

担当教職員より

今年度はコロナで中止となっていた餅つき大会を久々に行うことができました。

内野まつりのお神輿も多くのメンバーで担ぐことができ、地域の方々との距離感が一層縮まった1年だったと思います。

活動を楽しみつつ、次年度も頑張っていきましょう！

自然科学系工学部事務室 布施 尚大

活動記録（2024年4月～2025年3月）

- 4月 大説明会
- 5月
- 6月 梅プロジェクト（収穫）
まち歩き
- 7月 梅プロジェクト（シロップ加工）
地域活動中間報告会
- 8月 大学南が丘夏祭り
- 9月 内野まつり
- 10月 新大ランド（Hホームと合同）
- 11月 梅プロジェクト（贈呈式・試飲会）
- 12月 餅つき大会
ダブルホームシンポジウム
- 1月
- 2月
- 3月 梅プロジェクト（卒業記念植樹）



10月12日 新大ランド



12月1日 餅つき大会



ホームの概要

メンバー構成： 1年生 6人、2年生 6人、
3年生 8人、4年生 5人、
教員 2人、職員 2人

活動地域： 新潟市西蒲区松野尾

関連団体： 松野尾地域コミュニティ
協議会

ミーティング： 平日昼休み週 1 回程度

成果物・制作物



8月17日 夏休み学習会
手作りシャボン玉



12月7日 クリスマス会
手作りスノードーム

活動目的と概要

私たちは西蒲区松野尾で、主に子どもたち向けの事業の一部を企画・運営させていただいています。地域の方々の想いを汲み取りながら、また、学生のアイデアや企画にも賛同いただきながら活動に取り組み、地域と学生・教職員との絆をつなぐことを目的としています。今年度は夏休み学習会や運動会、クリスマス会、豆まき会の企画・運営をさせていただきました。活動の際には、企画から学年関係なく活発に意見交換を行い、運営もそれぞれが責任を持ちながら協力し、行っています。

活動目標の達成状況

【地域活動について】

今年度は、「全世代との交流を活性化させる」「いろはだよりの復活」の2点を活動目標に掲げ、地域活動を行いました。

1点目に関しては、昨年度に引き続き子どもから大人までを対象とした地域対抗運動会が行なわれました。加えて、今年度は5年ぶりに「知と技と運の競技会」が復活し、そちらでも松野尾地域の様々な年代の方々と関わるきっかけとなりました。

2点目に関しては、いろはだよりの復活はできませんでした。活動後のホームとしての振り返りの習慣不足や、イベントごとの役割分担の共有不足が原因として考えられます。しかし、松野尾地域の子ども部会の皆様のご協力もあり、活動日の周知が進み、たくさんの方に参加していただきました。次年度は、いろはだよりに限らず、SNS 運用もできればと考えています。

【ホーム運営について】

今年度は、「毎週行っているミーティングの学生参加率を上げる」「新加入生参加後に交流会を行い、ホーム内で学年を超えた親睦を深める」「イベントごとに、各学年混合の活動別縦割り班を組織し、上級生のリーダーシップのもと、下級生を中心に主体的に活動できる機会を確保する」の3点を活動目標に掲げ、ホーム運営を行いました。

1点目に関しては、ミーティングの曜日を固定化せず、ミーティング日に柔軟性を持たせることにより、より多くの人に参加できる日に開催しました。後述の縦割り班により、自分の担当イベント時期には参加してくれる人が多かったものの、参加者が固定化されたり、時期によっては参加者が減少したりしてしまいました。

2点目に関しては、計画は立てられたものの、実現には至りませんでした。今後、状況に応じて学年を超えた親睦を深められる場を作れたらいいと思います。

3点目に関しては、イベントによって縦割り班内での役割分担にばらつきがあったものの、多くの一年生が積極的に参加してくれました。負担分散の面でも、次年度以降は縦割り班内での役割も明確化できればと思います。

活動を通して学んだこと

普段なかなか子どもたちと触れ合う機会がありませんでしたが、B ホームに参加してから、子どもたちと一緒に何かをしたり、子どもたちの喜ぶ姿を見たりするのが楽しい・嬉しいと感じるようになりました。多くのイベントに参加することができ、またその度に子どもたちが自分のことを覚えてくれたことが1番嬉しかったです。

小川 天歌（創生学部1年）

今年度の活動を通じて、改めて「私たちが活動できているのは地域の方々の支えがあってこそである」と実感しました。特に、2月に行われた知と技と運の競技会は、100名を超える地域の方々の参加があり、松野尾の皆さんのあたたかさを感じた活動でした。来年度も地域との繋がりをより強いものにしていけたらと思います。

長谷川 葵（法学部3年）

昨年度よりも多くの活動や運営に参加させていただき、松野尾地域の方々のあたたかさを再度実感しました。どの活動でも、まっすぐ、楽しそうな子どもたちと関わることができ、とても楽しかったです。

木暮 奈都美（人文学部2年）

松野尾地域のステキな魅力や地域の方々のあたたかさに触れることができ、多くのことを学ばせていただきました。子どもたちや松野尾の方々の笑顔を見ることが楽しみで力になっていました。4年間ありがとうございました！

加藤 彩夏（教育学部4年）

今後に向けて

ダブルホームシンポジウムでは、「地域活動以外での関わりを持つために地域のイベントに参加する」「いろはだよりの発行」「役割分担の見直し」の3点が挙げられました。

1点目に関しては、地域のお祭りや芋掘りなど、まだ私たちが参加したことのないイベントがいくつかあることがわかりました。ダブルホーム活動の枠にとらわれず、地域とのつながりを感じられる機会をたくさん持ち、地域をより深く知れたらいいなと思います。

2点目に関しては、B ホームや地域活動についてより多くの方に知ってもらうために、回覧板に挟む瓦版のようなものを活用したいと考えています。しかし、この2年間実現していないこともあり、次年度こそ復活を目指すなら計画的に進めることが課題となっています。あるいは、B ホームはSNSの運用をしていないため、そちらを始めることも検討しています。

3点目に関しては、現在の縦割り班体制を見直し、一人一人が役割を持てる体制を整えたいと考えています。これにより、負担を分担し持続的な活動をすること、活動に参加する人数をより増やすことを目指します。

活動地域より

今年もあっという間に終わったけれど、我々とB ホームの活動が大学の本来の方針に沿ったものになっているかどうか考えながらの一年でした。地域の認識度は年々高まっている事は肌で感じています！

来期は一度立ち止まり振り返ってみて再構築することになるのでしょうか！楽しみです。

松野尾コミュニティ協議会 事務局 堀 秀俊 様

担当教職員より

今年度も運動会、クリスマス会等をはじめ、松野尾での充実した地域活動ができました。多くの子どもたちが楽しんだ様子を見せてくれ、地域の大人の方々も積極的に参加して頂けたことが印象的でした。今後もホーム全体、地域の方々とも協力しあってより良い地域活動を行っていきましょう。

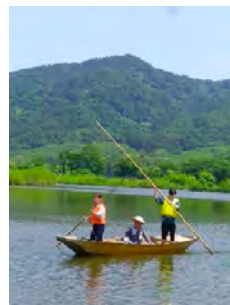
理学部 蛭川 潤一

活動記録（2024年4月～2025年3月）

4月	大説明会
5月	
6月	田舟乗船体験会
7月	まちあるき、地域活動中間報告会
8月	夏休み学習会
9月	
10月	運動会
11月	
12月	クリスマス会、 ダブルホームシンポジウム
1月	豆まき会
2月	知と技と運の競技会・反省会
3月	



10月13日 運動会



6月8日 田舟乗船体験会

**ホームの概要**

メンバー構成： 1年生 9人、2年生 9人、
3年生 3人、4年生 4人、
修士以上 2人、教員 2人、
職員 2人

活動地域： 柏崎市別俣地区

関連団体： かしわっこ

ミーティング： 平日昼休み週 1 回程度

成果物・制作物**地域活動中間報告会**

中間報告会で1年生が作成した別俣 MAP と
別俣を紹介する資料

**かき氷出店**

星空音楽祭でC ホームでかき氷屋さんを
出店しました

活動目的と概要

私たちが活動している地域は、柏崎市にある別俣地区です。別俣地区は少子高齢化が進む地域で人手不足が課題ですが、地域の方々が地域おこしにとっても積極的で、精力的に活動されています。私たち C ホームは地域で行われている活動のお手伝いをして人手不足に貢献し、新たなイベントの企画や SNS の運用によって、別俣地区をさらに盛り上げ、別俣地区の魅力を多くの方に伝えることを活動目的としています。

活動目標の達成状況**【地域活動について】**

今年度の活動目標は、「2 年生以上は地域との関係づくりから一歩踏み出し、主体的に地域の方々と関わり、様々なアクションを起こしていくことを目標にする。1 年生は先輩や地域の方々とたくさん話して別俣のことを知り、地域の方々と親密な関係を築くことを目標とする。ホーム全体では、活動の目的・目標を毎回設定し、ただ参加するのではなくダブルホームとして活動する意義を果たす」でした。

まず 1 年生は様々な地域活動や中間報告会の準備等を通して、同学年の仲間や先輩、そして地域の方々と積極的にコミュニケーションをとることができたという声がたくさんありました。直接顔を合わせる機会を多くすることで、地域の方との関係性を築くことができていると感じます。2 年生以上は主体的に活動することを目指し、新たな取り組みであるフォトコンテストの開催や、今後どうしていくべきかの具体的でより深い話し合いをホームで行うことができました。

ホーム全体としては、前半の活動では活動の目標を設定できていましたが後半では疎かになってしまっていたので、来年度は毎回の活動で目標を設定して、ダブルホームとして活動する意義を明確にしたいです。そうすることで活動に意欲的な学生も増えることを期待します。

【ホーム運営について】

ホーム運営についての目標は、「地域活動を通してホーム内の仲を深めるのはもちろん、長期休みなどにホーム内で交流会を行って、コミュニケーションが取りやすい環境づくりをしていく。また、引継ぎを含めて長期間ホームが存続する体制を作っていく」でした。地域散策と中間報告会の時にレク係が懇親会を企画してくれましたが、なかなかメンバーの予定が合わず開催に至らなかったのがとても残念でした。地域活動やホームミーティングの話し合いでは学年関係なく交流できたと思います。1、2 年生を中心に全員に係を割り振り、責任を持って活動することを目指しました。割り振ったのは良かったですが、活動への参加頻度等の関係で係の中でも負担が偏ってしまっていたので、改善すべきだと感じます。しかし、これは役割分担以上に、メンバー間の活動への参加意欲の差が原因だと思うので、まずはホームメンバーが活動したいと思えるような組織運営を目指していくべきだと感じました。

活動を通して学んだこと

ダブルホームでの活動は新鮮でした。活動地域は柏崎市別俣、私の地元も柏崎ですが結構離れて、普段知っているものとは違う一面を知ることができました。特に地域の方が将来を見つめて行動を移していくのが無常観を思い出させてぐっときました。自分の将来に関してもちゃんと向き合おうと思えました。

下條 心（理学部 1 年）

地域の方々に支えられながら活動をしていく中で、対面で交流し意見を共有することの大切さを学びました。今年度は昨年度に比べて活動の幅を広げることができた一方で、話し合いの不足を感じる場面もあったと思います。より良い活動にするために地域の方々やメンバーとの対話を重ね、意見を積極的に言うことが重要だと実感しました。

飯塚 美咲（人文学部 2 年）

1 番に学んだことは想いを伝える最高の手段が行動で示すことであるということです。別俣の方々には訪問するたびに嬉しそうにとてもあたたかく、私たちのことを出迎えてくれました。オンラインで便利に別俣の方々とコミュニケーションが取れるようになりましたが、別俣にわざわざ足を運ぶという行動がどんな言葉を交わすよりも価値があることに気づきました。 堀内 颯太（創生学部 3 年）

C ホーム誕生から 2 年経ちましたが、様々な活動に参加させていただく中で、別俣の皆さんの包容力を感じました。時には失敗することもありましたが、豪快に笑い飛ばしてくださる湖のような広くて穏やかな心を私も見習っていきたいと思います。ホームとしては、イベント出店などさらに活動を広げていってくれと嬉しいです。

加藤 颯真（人文学部 4 年）

今後に向けて

シンポジウムに向けてホームで今年度の活動の振り返りをし、他ホームの方々からアイデアや意見をもらい、別俣の方とも話し合いをした結果、活動の方向性や、新たなイベントの具体的な内容について直接顔を合わせてゆっくり話し合う機会を設けたいということになりました。別俣地区で活動し始めて 2 年がたった今だからこそ、改めて地域との関わり方を考え直し、地域の方々とも共通認識を持ちたいと考えます。この 2 年間は別俣地区の既存イベントのお手伝いがメインの活動でしたが、このままでもダブルホームとして活動させていただいている意義を果たしているのか、また学生はダブルホームを通して何を体験して何を得たいのかを、学生、教職員、地域の方々全員で話し合う時間はとても大切だと考えます。このようなことを明確にしたうえで、来年度はより充実したダブルホーム活動を行っていきたいです。

活動地域より

令和 7 年＝昭和 100 年です。団塊の世代が全て 75 歳以上の後期高齢者となる超高齢化社会が到来しました。殊に中山間地域においては大変な事態です。みんなが安心して今後もこの地域で住み続けられるよう、賑わいのある地域を目指して、あがいているところへ C ホームのみんなと地域活動を進めることができました。そこに融和と連携と活動の輪が広がりを魅せ、それでもまだ地域に体力があるうちに、学生という若いチカラのカンフル剤を得られたことに感謝を申し上げ、地域へのアクションに限りないエールを送ります。

べつまた地域 小暮 キズク 様

担当教職員より

C ホームの 2 年目。昨年度に比べて、地域に通う回数は少なかったのですが、メンバーたちがじっくりと地域について考え始めたように思います。別俣において、C ホームがどういう立ち位置にあるのか、何が出来ているのか、（きっとひとつじゃないのだけど、）ひとつの解が見出だせそうな予感がしています。

人文学部 園田 浩司

活動記録（2024 年 4 月～2025 年 3 月）

4 月	大説明会
5 月	
6 月	地域散策
7 月	地域活動中間報告会、稲虫送り、川遊び
8 月	星空音楽祭
9 月	稲刈り
10 月	コミセン祭
11 月	
12 月	ダブルホームシンポジウム
1 月	
2 月	スノーフェスティバル
3 月	語ろう！元気な「べつまた」



7 月 27 日 川遊び



2 月 2 日 スノーフェスティバル



ホームの概要

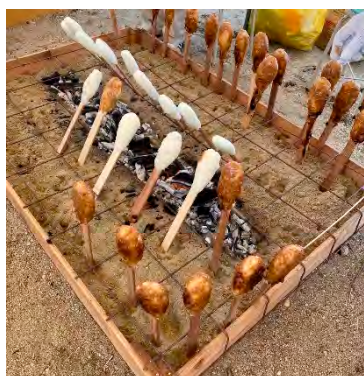
メンバー構成： 1年生 9人、2年生 7人、
3年生 5人、4年生 1人、
教員 3人、職員 1人

活動地域： 新発田市板山地区

関連団体： 夢づくりいたやま

ミーティング： 平日昼休み週 1 回程度

成果物・制作物



「郷土料理」やろまんま

5月に開催された「夢まつり」において、板山地区の郷土料理である「やろまんま」をつくりました。



さんせつと活動紹介ポスター

年間の活動を月ごとにまとめ、ヒメサユリ関連の活動をメインに紹介したポスターをシンポジウムに向けて作成しました。

活動目的と概要

活動地域について簡単に記述し、自分たちのホームの活動目的と概要を記述します。第一の目的は、地域の一員としての自覚を持って、楽しく活動することです。そのうえで板山地域の存続に貢献するために、情報発信と魅力の再発見を目的とした活動をしてきました。具体的には、ホームの活動と板山の魅力について発信することを通して板山とダブルホームを知ってもらうこと、よそ者の私たちが新しい視点で新しい魅力を発見することに力を入れてきました。

活動目標の達成状況

【地域活動について】

今年度の年次計画書に記載した活動地域に関する目標のうち、「よそ者の私たちが地域の方にはない視点で板山の新たな魅力を発信できるようにする」「固定行事以外での交流の幅を広げる」「自己紹介ポスターを作り互いを知る」の3点について達成状況を振り返りました。

まず一つ目については、板山地区の新たな魅力として乳牛の飼育が盛んであることに注目し、これを活かしたチーズ作りといった新たな魅力の発信に繋がるアイデアを出すことができ、結果として実行には至っていないもののある程度目標を達成することができたと感じました。

次に二つ目については、チャレンジ活動としてヒメサユリの自生地整備を行い、ヒメサユリの活動に力を入れつつ固定行事以外でも交流するという目標を達成できました。

最後に三つ目については、自己紹介ポスターの作成ができておらず、そのためお互いの認知が不完全になってしまい、地域の方と会話する際にも自己紹介をしている現状であり、目標が達成できていないと感じました。

【ホーム運営について】

昨年はミーティングでなかなか意見が出ず、その結果直前に決まったり一人の意見に偏ったりするなど十分な話し合いができていませんでした。ゆえに今年度は意見を事前に考えてもらうなどの対策をすることで、ミーティングでの活発な意見交換を活動の目標としてきました。よって今年度は決定を要する事項を事前にメンバーに共有することでミーティングにおいて意見を出しやすくなるよう運営の在り方を工夫しました。その結果、昨年度よりも多くの意見が出され、活発な議論が実現されたとともに、決定内容をより良いものとすることができました。

また、昨年はメンバー間の連絡が不徹底だったことにより、ミーティングの開始時間が遅れるなど効率的な運営ができませんでした。そこで今年度は、ミーティングの開始時間を決めてメリハリをつけることを目標にしていました。活動を振り返ると、出席の可否連絡を必ず行うことをメンバーへ伝えるなどして意識的な改善を図ったことで、連絡を徹底することができ、スムーズにミーティングを進めることができました。

活動を通して学んだこと

慣れないことが多いながらも、先輩方に支えてもらいながら1年間やりきることが出来ました。また、1年生中心でイベントを主催出来た経験は、来年度の活動に大きく役立ってくれると考えます。総じて、来年度に向けて、万全の準備が出来たと考えています。

山岸 颯馬（工学部1年）

今年度は後輩の成長を見られた1年でした。3年生になってからは授業や就活で、ホームに顔を出す機会が減ってしまいました。それ故に心配なこともありましたが、行事の写真や振り返りを見ると楽しそうな様子で安心しました。1年間ホームを先導してくれた後輩らには感謝です。

澤井 奎治（理学部3年）

今年度はホーム長として活動し、ホームとして活動目標を具体化することの大切さを学びました。具体化することによりメンバー内でやるべきことを共有でき、活動への意欲にも繋がります。また、地域の方に私たちが何をしたいのか明確に示しやすくなります。

金子 悠璃（経済科学部2年）

地域の方と協力してより良い活動にするには、互いに話し合うことが大切であり、活動の振り返りを共有することで、次の活動をより良いものにできることを学びました。また、活動の目的や意義を意識すると、準備から積極的に関わることができ、楽しく取り組むことができました。

中村 菜乃葉（人文学部4年）

今後に向けて

シンポジウムでの話し合いを通して、次年度以降、以下の3点に取り組みたいと考えています。

1点目は、広報活動の更なる拡充です。我々さんせとはInstagramによって広報を展開していますが、それを対外的にも行おうと思います。具体的には、一定期間ごと、或いは活動ごとにパンフレットを作成し、より多くの板山の方々にさんせとの活動を知って頂くと共に、活動に関わって頂けるようにします。また、Instagramも活動記録のデータベースとして活用します。さらに、可能であれば、FacebookやXなど、複数・多様なプラットフォームでの発信によって、対外的な広報も拡充を図ります。

2点目は、役割分担の明確化です。今年度も、特定の人(主に現2年生)に負担が偏ってしまいました。それを解消すべく、ホーム全体を幾つかのグループに分け、活動ごとに違うグループに地域との折衝を担当させます。前期は2・3年生を中心とし、それを参考に、後期は1年生が担当します。

最後は、地域の方々との関係の深化です。既に今年度ごく一部のメンバーで行った地域でのお泊まり会について、来年度はより規模を拡大して行うなど、より地域の方々に関わる機会を増やします。

活動地域より

秋の収穫感謝祭でのポップコーン作りのときに「いたやまの活動、楽しいよね」という言葉が聞こえてきてとても嬉しかったことを思い出します。交流会では、地域の方々と積極的に会話をしようとする姿勢にとっても感銘を受けました。皆さんの素直さ、明るさとともに歩んでゆきたいと思います。

新発田市板山地区 本間 喜一 様

担当教職員より

ダブルホームは、地域や仲間の思いを大切にしながら取り組むことができる新潟大学の特色を活かした活動です。目指すべき将来の自分の道しるべになる活動に参加できることを千載一遇のチャンスととらえ、目標を持って主体的に活動に参加することを期待します。

教務課 宇田 稔樹

活動記録（2024年4月～2025年3月）

- 4月 大説明会
- 5月 田植え・筍掘り、夢まつり・秋葉山登山
- 6月 村歩き
- 7月 地域活動中間報告会
- 8月 キッズサマースクール
- 9月
- 10月 稲刈り、ヒメサユリ自生地整備
- 11月 収穫感謝祭、ヒメサユリ種まき
- 12月 ダブルホームシンポジウム
- 1月 ほやほや
- 2月
- 3月 卒業式



10月20日 花植え
花を真っ直ぐに並べ、カラフルに花壇を彩りました



10月6日 稲刈り
板山の方々から刈り方を丁寧に教えていただきました



ホームの概要

メンバー構成：1年生7人、2年生7人、
3年生3人、4年生3人、
修士以上1人、教員1人、
職員2人

活動地域：新潟市赤塚地区

関連団体：佐潟と歩む赤塚の会

ミーティング：平日昼休み週1回程度

成果物・制作物



佐潟まつりへの出店

8月24日の佐潟まつりにて、佐潟で採れたヨシを使用した紙漕ぎ体験を出店し、多くの方にご好評いただきました。



シンポジウムでの展示

ハスフラワーやEホーム紹介チラシの他、佐潟の近くにあるハーブ園「ハーブランドシーズン」さんのハーブを使用したサシェを作成し、展示いたしました。

活動目的と概要

私たちEホームは、新潟市西区赤塚地区で活動しています。活動の中心は佐潟というラムサール条約に指定された湿地で、白鳥をはじめ多様な生物が生息する自然豊かな場所です。私たちは「佐潟と歩む赤塚の会」の皆さんをはじめとする地域の方々との交流や、佐潟・赤塚の魅力発見を目的に活動しています。地域訪問では行事への参加や佐潟の自然保護への協力、日々のミーティングでは話し合いだけでなくホームメンバー同士の交流を通じて、Eホームらしさを大切にしながらホーム活動の活性化に努めています。

活動目標の達成状況

【地域活動について】

今年度は、「①活動報告の共有」「②やりたいことの実現」「③新たな活動の実施」という3点を目標として掲げ、活動に取り組みました。

①についてはSNS上で写真や動画を見せ合うことで活動に参加できなかった人だけでなく、参加していても気づけなかった視点を伝え合うことが出来ました。一方で、ミーティング内など直接顔を合わせて気づいたことや感じたことを伝える機会が少なかったため、来年度以降は意識して増やしていきたいです。

②③に関しては、SNSの活性化や赤塚地区まち歩きといった新しい活動を行うことができました。SNSでは投稿頻度を大きくあげたことで、内容に対し赤塚地区内外の方から反応を頂きました。まち歩きは新加入生の提言を基に誕生した活動で、「やりたいことの実現」を達成できたように思います。しかしながら、既存の活動でさらによくできた点もあったように感じています。来年度以降は、活動の「新しさ」だけでなく、今ある活動を更に良くする方法についても話し合っていきたいです。

【ホーム運営について】

ホーム運営については、「①仲を深める空気作り」「②活動報告の相互確認」「③新役職の創設」の3点を目標としていました。

①については、ミーティングを連絡・相談の場だけでなく交流の場としても設け、談笑や一緒にゲームをして達成できたように思います。脈々と続いてきた「Eホームの空気」を先輩方が卒業しても守っていけるようこれからも努めたいです。

②についてはあまり行うことができませんでした。来年度は改善できるよう努めます。

③については、活動していく中で必要な役職・そうでない役職とブラッシュアップされ、結果的には目標通りの活動形態にはなりませんでしたが。来年度以降も役割分担は常に吟味し、よりよいホーム活動に繋げたいです。

活動を通して学んだこと

今までの学生生活では体験できない地域活動に参加し、佐潟に関わる人々とお話させて頂くことが新鮮でした。特に、佐潟まつりで多くの赤塚地区に住む方々と共同作業をし、地域を盛り上げる一員となれた貴重な体験が印象的です。

豊嶋 菜帆（人文学部 1 年）

佐潟の食材や料理を通じて、自然の恵みを体感することができた 1 年でした。また、地域の皆様の温かいおもてなしと、メンバー同士の絆に支えられのびのび活動できました。これからも佐潟の魅力を発見できるよう、積極的に足を運びたいです。

横尾 誠太郎（経済科学部 3 年）

昨年よりも佐潟の自然をはじめとして地域と深く触れ合った 1 年でした。実際に潟に入り行ったハスの保全活動では、全員が互いに声を掛け合いながら作業を完遂させていくその様子に、地域の方の温かさを感じると共に協働する上で大切なことを学びました。

佐々木 愛乃（経済科学部 2 年）

本年度の活動を通して、交流の輪を広げることのよさを学んだと考えています。佐潟まつりでは E ホームとは別に、新潟国際情報大学の学生と協力してブース運営を行ったり、ユニホッケーでは他のホームや地域の人々に関わったりなど普段の活動に新鮮さをもたらしてくれたと感じます。

中村 隆人（人文学部 4 年）

今後に向けて

今年度はハスの移植作業や赤塚地区のまち歩きといった新しい活動が増え、昨年度以上に精力的にダブルホーム活動に臨めたと感じています。また、佐潟まつりでは E ホームとして紙漉き体験を出展させていただいたほか、佐潟と歩む赤塚の会の皆さんの出店も協力させていただきました。ホームメンバーだけでなく、地域の皆さんと一層深く関わることができ、協働する楽しさ・大切さを学ぶことができました。この時に得たものを、今後の E ホーム活動で活かしていきたいです。

一方で、天候不順で中止せざるを得ない活動もありました。この点に関しましてはシンポジウムでの話し合いで「屋外での活動はプランを 2 つ考える」という改善策が出ましたので、今後の活動に活かしていきたいです。また、学生が主体の活動もあまりできませんでした。来年度はそういった活動を増やしていきたいです。具体的には、E ホームでも他のホームの皆さんと佐潟や赤塚で活動できるようなイベントができないか考えています。活動の中で築かれた E ホームの絆を大切に、来年度以降もより良いダブルホーム活動に努めていきたいです。

活動地域より

昨年 6 月の新加入生を迎え入れたオリエンでは、学生の皆さんも参加したハス再生のための木枠づくり作業のスライドを交え当会の活動を説明しました。胴長を身に着けて水位が下がった潟に入り、杭や材料を脇に抱えて沖合 100 メートル程まで泥に足を取られながら運びました。困難な作業をしなやかに乗り越えて成し遂げた学生の皆さんを頼もしく思いました。ダブルホーム活動ではレジリエンス（適応力）も鍛えられます。感謝！

佐潟と歩む赤塚の会（新潟市西区） 涌井 晴之 様

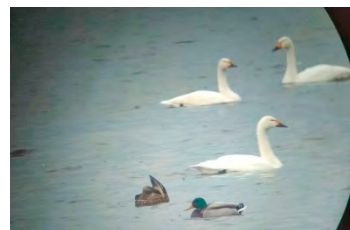
担当教職員より

今年度は、色々と新たな挑戦に踏み出せたと思います。ハスの育成や移植、佐潟を飛び出して赤塚まち歩き、ホームを越えてのユニホッケー参加などなど。一方で、悪天候に阻まれて実現できなかったイベントもありますので、来年度もまだまだ楽しめは尽きませんね！一緒に頑張りましょう！

自然科学系総務課 西 洋平

活動記録（2024 年 4 月～2025 年 3 月）

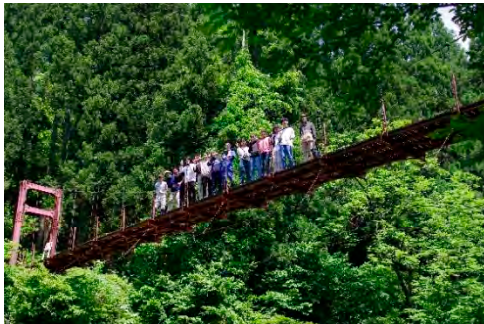
- 4 月 大説明会・中原邸見学
- 5 月 ハス移植作業
- 6 月 新入生加入地域訪問、佐潟クリーン作戦
- 7 月 地域活動中間報告会、灯籠づくり
- 8 月 佐潟まつり
- 9 月 赤塚まち歩き
- 10 月
- 11 月 ハーブ園訪問
- 12 月 ダブルホームシンポジウム
- 1 月
- 2 月
- 3 月



12 月 21 日 白鳥観察



7 月 27 日 灯籠づくり



ホームの概要

メンバー構成： 1年生 8人、2年生 4人、
3年生 3人、4年生 2人、
教員 1人、職員 2人

活動地域： 山形県小国町玉川地区

関連団体： 小国町振興会

ミーティング： 平日昼休み週 1 回程度

成果物・制作物



新大祭室内ブースの様子

新大祭では屋外ブース、屋内ブース、地域連携ブースの3ブースにおいて出店をおこないました。多くの方に小国町について知っていただけました。



雪掘りの様子

F ホームの雪掘りの様子です。
この日の活動は山形新聞様にも取り上げていただきました。

活動目的と概要

山形県小国町は新潟県と山形県の県境に位置し、春夏秋冬の異なる美しい景色が大きな魅力です。今年度は玉川地区を中心として雪囲いや雪掘りなどの地域作業にも積極的に参加しました。昨年度と比べると地域訪問の回数が大幅に増加し、地域の方との距離が近くなったと感じる機会が増えました。今後もたくさん地域に赴き、外部の人間ではなく、小国町の一員として認めてもらえるよう活動していきたいと思います。

活動目標の達成状況

【地域活動について】

今年度はできるだけ多くの地域の方と交流を増やすため地域作業や地域イベントへの参加を増やし、昨年度までは交流のなかった方々と交流することができました。特に、地域作業への参加は玉川の多くの地域の方々が参加するため、玉川の地域住民の方々と顔を合わせることができました。しかし、いつもF ホームとお話する地域の方が限られてしまっているのが積極的はまだ話したことのない地域の方とお話していききたいと思います。

更に、他地域のイベント参加や新大祭の物品調達などを通して小国町内の多くの方々にF ホームを知っていただけました。新大祭の物品調達では実際に何度も小国へ足を運び、地域のお菓子屋さんや話をすり合わせる中で交流することができました。また、花火大会や米坂線復活絆祭りなど地域訪問外でイベントへ参加することで地域の役場の方や商社の方にF ホームを知っていただき、今後の協力体制を作ることができました。来年度はこの協力体制の基礎をもとにもっと新しい活動にチャレンジできたらと思います。

【ホーム運営について】

今年度「新入生が一人もやめないホーム」という目標を掲げ、今年度が終了するまでは一人もやめないことを達成することができました。特に、活動入門Ⅱが終わった9月以降の参加率が不安でしたが、地域訪問には来られなくても新大祭でみんなが活動し、ホームのために一生懸命動いてくれました。今年度の新入生が辞めなかった理由はいろいろ考えられますが、大きな要因は大説明会でF ホームにあった人を引き付けることができたことが大きかったのではないかと考えられます。

しかし、全員がホーム内で起きていることをすべて把握するという目標は達成ができませんでした。ミーティング報告はメーリスで記録されるものの、ミーティング外で決まったことについてはなかなか把握できにくかったり、LINE等で報告しても流れてしまったりするなどの問題がありました。来年度はホーム内で運営に関わる人と活動のみに参加する人で分けてLINEグループを作るなど、より少人数で運営を行うことでスムーズかつ、運営メンバー内で情報共有のしやすさなども重視していきたいと思います。

活動を通して学んだこと

私は今年度の活動を通して多くの学びを得ることができました。中でも、実際に地域の方と協力して催し事や地域作業に取り組んだことで、情報としてではなく経験としてその土地についての理解を深めることができたことが、私としては大きな学びであったと感じます。

星野 泰河（農学部1年）

学生や地域の方々を含む活動に関わる皆さんの「想い」を知ることが重要だと感じました。今年度は玉川に加え、緑のふるさと協力隊や町役場の方とも交流し、小国で活動する多くの方々の想いに触れました。今後もその想いを尊重し、Fホームとしてできることを模索していきます。

高村 健太朗（経済科学部3年）

今年度はホーム長として責任が伴った活動が多く、組織をまとめる大変さであったり、物事を遂行するにあたって戸惑う場面も多くありましたが、個人的に成長できた1年になりました。また、Fホームの活動や人脈の幅がどんどん広がって今まで交流がなかった人たちと関わり話をする中でもっと小国に関わっていきたいと思えました。

森下 乙夏（理学部2年）

地域を知ることだけでなく、地域に自分たちをアピールすることで、互いに知り、理解しあっていくことが、活動の幅を広げより良い活動を作る上で重要であると感じました。今後も今年度のように、コミュニケーションを重視し、楽しみを忘れずに、より深く広く地域で活動していきます。

米山 智暁（工学部4年）

今後に向けて

今年度は小国で人脈を作る一年になりましたので、来年度は今年度と同様に地域の方々とのつながりを大切にしながら今年作り上げた人脈をもとにもっと新しいことにチャレンジしていけたらいいなと思います。とくに今年行うことができなかった大里峠歩こう会や山菜祭りなど玉川におけるイベントを多く企画していきたいです。

さらに、今年で玉川でのしめ縄づくりが終了してしまった件を受けて今もしめ縄づくりを続けているQホームと共同してしめ縄づくりを残していくためにはどのようにするかなどを一緒に考えていきたいです。また、Qホームとはしめ縄づくりだけでなくほかの機会でも協力体制を構築していきたいです。さらに、玉川コミセン前にある旧玉川小中学校の寄宿舍をお借りできることになったので環境整備をしてFホームの拠点として活用できるようにするだけでなく、小国で活動する他大学の学生にも使用していただけるような拠点づくりを行ってきたいです。完成後は拠点を中心として泊りの活動など、もっと地域と近くなれるような活動をしていきたいと思っています。

活動地域より

本年度は、昨年度以上に地域の共同作業や行事に積極的に参加して頂き、大変感謝しております。過疎化、高齢化のすすむなかですが、地域住民もFホームのみなさんと一緒に成長していければと思っています。ぜひ、来年の秋には、自分たちで作った里芋で芋煮会をしましょう。

小国町玉川地区 清野 典雅 様

担当教職員より

今年度は小国町全体を知りPRするチャレンジ活動と玉川地区での生活に根ざした四季折々の活動をバランスよく行っていたと思います。芋煮づくりの腕も上がり、新大祭での食品屋台の出店をついに復活させた皆さんのパワーで、来年度はどんな活動をしていけるか、楽しみにしています。

自然科学系工学部事務室 實川 絵美

活動記録（2024年4月～2025年3月）

- 4月 大説明会
- 5月 萱野峠散策、看板設置
- 6月 新入生地域訪問
- 7月 クロモジオイル作り体験＆空き家お泊り、地域活動中間報告会
- 8月
- 9月 若葉のふるさと協力隊の方々と交流
- 10月 しめ縄づくり
- 11月 地域作業
- 12月 ダブルホームシンポジウム
- 1月 さいず焼き
- 2月 雪掘り
- 3月 来年度の活動計画決め



10月27日 しめ縄づくり



1月12日 さいず焼き



ホームの概要

メンバー構成： 1 年生 10 人、2 年生 7 人、
3 年生 3 人、4 年生 4 人、
修士以上 1 人、教員 2 人、
職員 1 人

活動地域： 東蒲原郡阿賀町日出谷・
豊実地区

関連団体： わげしよの会

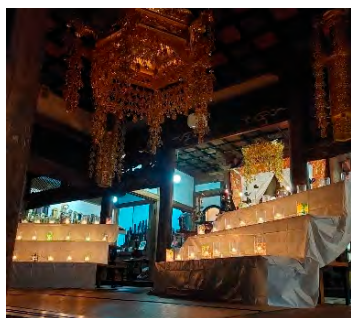
ミーティング： 平日昼休み週 1 回程度

成果物・制作物



新大祭への出店

今年度、新しい試みとして新大祭への出店
を行いました。阿賀町の魅力を来場した皆
さんに感じていただけたかなと思います。



キャンドルナイト

今年度は、豊実地区にある宝来寺さんの境内
で開催させていただきました。お寺の厳かさ
ときらびやかなキャンドルがマッチし、とて
も幻想的な雰囲気のイベントとなりました。

活動目的と概要

私たち G ホームは、主に阿賀町豊実地区で地域団体「わげしよの会」の皆様と共に活動を行っています。自然豊かかつ雄大な山々に囲まれた豊実はたくさんの魅力の詰まった地域です。

今年度は「関わった全ての人に笑顔を届ける」を目標に掲げ、活動しました。これには、G ホームメンバーのみではなく、地域の方等 G ホームに関わってくださる様々な方たち全員が笑顔になれるよう活動をしていく事が目的となっています。

活動目標の達成状況

【地域活動について】

- ① 地域をよく理解し、その地域のことを好きになる。
- ② 学生が主体となってイベント運営に携わる。
- ③ 地域の魅力や、自分たちが行っている活動を SNS 等活用して地域外に向け発信する。
- ④ 阿賀町で活動する他ホームとの交流も深めたい。

①～③の目標については概ね達成できていると考えています。今年度は、新大祭への出店や山菜祭りへの参加等新規で開始した活動が多く、その中でも新大祭への出店は、企画からお店への協力をお願い、出店まですべて自分たちで行いました。地域の方や、来場された方々からの評判も上々で、とても良い経験になりました。また、SNS での活動発信について、昨年度（2023 年度）1 年間では投稿が 7 件でしたが、今年度（2024 年度）は 16 件と 2 倍以上に増え、フォロワーも 100 人ほど増加させることができました。「SNS 見ました！」と学生や地域の方から言っていただくこともあり、昨年度よりも上手に SNS を活用することができたと思います。

④については、今年度企画段階(阿賀町 4 ホームでの交流会)までは進んだものの、実行までは至りませんでした。「阿賀町全 4 ホームでの交流」が来年度の最も重要な目標になると 생각합니다。

【ホーム運営について】

- ① 報告・連絡・相談をさらに活発にする。
- ② 余裕をもって計画を立て始める。
- ③ 役割分担をし、一人に仕事が集中しないようにする。

全ての目標が達成できていると思います。昨年度より活動で主力の 1、2 年生の人数が多かったこともあり、全員でホーム内の仕事を分担して活動することができました。また、計画から意思決定、実行までを迅速に行うことができ、その結果が活動回数の増加という形で表れました。来年度は、主力の 1、2 年生の人数がより増えると思われるので、今年度以上に全員が意見を出し合い、活気あふれるホームにしていってほしいと考えています。

活動を通して学んだこと

今年度は、G ホームでの活動を通して阿賀町の人々のあたたかさや地域の魅力を直接感じる事が出来ました。また、中間報告会に向けて重ねたミーティングでは、仲間と協働する大切さを学びました。地域の人や仲間と支え合いながら活動に取り組むことが出来た1年でした。

半場 悠斗（経済科学部1年）

今年のG ホームは人との繋がりの中で非常にパワーアップしたと思います。OBOGの方々や、新入生の加入など含め、このG ホームが賑やかでより楽しい場所になったことを実感します。そんなG ホームで、たくさんの人を巻き込んだ飲み会の楽しさを学べたのが一番の収穫です。

清水 陽大（経済科学部3年）

今年度は人数の多さを活かして、様々なことに取り組むことができました。ホーム一丸となって取り組むことで、新たなことにもチャレンジできることを学びました。また、地域の方やOB・OGとの交流の機会が増えたことで、自分たち以外の思いや考えを知ることができました。

須永 ひなの（経済科学部2年）

今年度も対面での活動が増え、より一層わけしょの会の皆さんとの仲や信頼を深めたり、地域の魅力を発見したりすることができました。4年間を通して、現地でしか味わえない貴重な経験があることや、地域の方とのつながりの大切さを学びました。

茂野 凜花（教育学部4年）

今後に向けて

来年度から、私たちG ホームは「阿賀町内4ホームの連携」を一つ大きなテーマにして活動していきたいと考えています。私たちの主な活動地域としては豊実地区ですが、新大祭では津川地区の菓子店とコラボしたり、街歩きと称して阿賀町中心部を観光ガイドの方に案内していただき、ホームメンバーが阿賀町の歴史について学んだりする等、阿賀町の他の地区で活動することも多いです。その中で、阿賀町の他のホームと連携しながら活動し、共同でイベントを開催すること等ができれば、ダブルホーム活動の力で阿賀町全体をより盛り上げることができないのではないかという考えに至りました。そのため、来年度は豊実地区での活動も大切にしつつ、阿賀町内4ホームで連携しながら活動していくための基礎固めの1年にしたいと考えています。

しかし、Gホームとして新しいことに挑戦するのももちろん大事ですが、Gホームの全ての活動の根本にある考え方の「楽しむ」ということだけは忘れないようにしたいと思っています。ホームメンバーが活動に参加し、全力で楽しむことで、地域の方含めGホームに関わる全ての人を笑顔にすることができると考えています。メンバー全員が「Gホームの活動最高！」と思うようなホームを目指して活動していきたいです。

活動地域より

フレッシュな感覚をいつもありがとう。Gホームの皆さんが訪れると新しい発見や発想に驚きます。今年は、今まで参加したことがない地域行事にも参加していて、好奇心に若さを感じます。これからも豊実と阿賀町のファンでいてください。

阿賀町豊実地区 佐藤 高博 様

担当教職員より

本年度は、お寺でのキャンドルナイト、新大祭での出店など、新たなチャレンジが多くありました。地域の方々との関係はより一層深まり、さらにOB・OGとのつながりも強固なものとなりつつあります。時間を超えて世代を超えて空間を超えて楽しめるのがGホームのよいところです。来年度も地域を尊重し皆で仲良く笑顔の絶えない活動をしていきましょう！

工学部 飯島 淳彦

活動記録（2024年4月～2025年3月）

- 4月 大説明会
- 5月 山菜祭り参加
- 6月 地域訪問
- 7月 地域活動中間報告会、阿賀町散策
- 8月 新大祭出店準備
- 9月 //
- 10月 新大祭出店
- 11月 キャンドルナイト
- 12月 ダブルホームシンポジウム
- 1月
- 2月
- 3月 活動報告と次年度相談



7月15日 阿賀町探索



7月20日 中間報告会



ホームの概要

メンバー構成： 1年生7人、2年生4人、
3年生4人、4年生4人、
教職員3人

活動地域： 新潟市西区内野

関連団体： 越後・新川まちおこしの会

ミーティング： 平日昼休み週1回程度

成果物・制作物



地域活動中間報告会

1年生からホームの活動計画や目標の
改善提案を行った



A ホームと合同で行った新大ランド

西区公民館にて小学生向けのイベントを
行った

活動目的と概要

学生と地域の方々が笑顔で過ごせる内野を目指し、まずはホームメンバーが居心地の良い空間を作り、次に地域の方との関わりを増やし、深めていこうという方針で活動してきました。また、コロナ禍でなくなってしまった「新川ほたる」の代替イベントを考え、準備を進めました。まち歩き、内野まつり、新大ランドなどの既存イベントを通して関わる人を増やせるような工夫も行いました。

活動目標の達成状況

【地域活動について】

H ホームは内野にホームとして訪れる回数を増やし、地域の方々との関係性を構築することや、内野のことをもっと知ること、イベントの企画者との交流を通して学生が力になれる部分を探ることを目標にしました。

まち歩き、新大ランド、新川音楽祭と昨年度から継続したイベントには参加し、地域の方々との交流を図ることができました。しかし、新しいイベントとしてうちの祭りへの学生の参加は1人だけであり、新川ほたる復活へ向けた準備に関しても地域の一人とH ホームだけの準備になり多くの人を巻き込むことができませんでした。

【ホーム運営について】

H ホームに参加していて本当に良かったと思えるようなホームづくりを目指し、1年生が積極的に活動に参加できるように工夫したり、新たな活動に挑戦したりしました。

しかし、地域とのかかわり以前にホーム内の体制が整っていないことが大きな課題だったと思います。引継ぎが十分になされていないことや、役割に対して責任を持てなかったことなどがあげられます。

活動を通して学んだこと

学生、地域の方と双方にとって意味のある活動を行うことの難しさを感じました。学生にできることには限りがあり、その中で地域に対して何ができるかを考え、行動すること、そして地域での活動が学生にとってどんな意味があるのかをホームメンバーに伝えること、一緒に行動してもらうことが大切だと思いました。

堀内 颯太（創生学部 3 年）

私はまち歩きを担当しました。3 年生のリーダーと協力しながら、去年の反省点を活かして活動を進めることを心がけました。地域のことを知り、よく考える 1 年となりました。自分の軸を持って、責任を持って活動することを大切にしていきたいと考えました。

吉村 美紅（創生学部 2 年）

新しい関係性の構築や活動を始めるためにはとてつもない労力が必要なことを改めて学びました。価値観の違いや熱意の差が一貫して活動の障壁になっていたのかなと感じています。

安川 史也（法学部 3 年）

子供たちとの触れ合いは大学生になると少なくなるので貴重な体験であり、多くの刺激を受けました。活動を通じて計画の大切さや教職員・地域の方、学生との連携の難しさを実感し、協力しながら企画を進める大変さを学べました。

西岡 寧々（農学部 3 年）

今後に向けて

活動参加者が減ってしまったことや引継ぎができなかったこともあり、活動休止の方向となりました。活動再開の見通しはまだたっていません。

担当教職員より

今年度の活動は、新大ランドがありましたが、学生のみならず、参加してくれた子供たちとうまくコミュニケーションを取っていたのが印象的でした。いろいろ悩んだ一年で大変だったかと思います。本当におつかれさまでした。

施設管理課 渡邊 直秀

活動記録（2024 年 4 月～2025 年 3 月）

- 4 月 大説明会
- 5 月 まちあるき
- 6 月
- 7 月 親睦会、地域活動中間報告会
- 8 月
- 9 月
- 10 月 新大ランド
- 11 月 新川音楽祭
- 12 月 ダブルホームシンポジウム
- 1 月
- 2 月
- 3 月



7 月 16 日 親睦会



10 月 12 日 新大ランド



あいホーム 栃尾の中心であいを叫ぶ



ホームの概要

メンバー構成： 1年生 8人、2年生 7人、
3年生 2人、4年生 4人、
修士以上 1人、教員 1人、
職員 2人

活動地域： 長岡市栃尾地区

関連団体： 栃尾商工会
栃尾観光協会

ミーティング： 平日昼休み週 1 回程度

成果物・制作物



ユニホッケーの試合前

ユニホッケー大会では他のホームとも
交流しました！



シモシオノアカリ in 下塩小学校

このイベントは新たな企画で、栃尾の
方に思いを伝えることが出来ました。

活動目的と概要

長岡市栃尾地域は上杉謙信旗揚げの地であり、雁木の街並み
も有名です。今年度も引き続きユニホッケーやトチオノアカ
リ、武者行列への参加はもちろん、新たな企画にも挑戦したい
です。交流人口増加に向け、これらを通して発見した栃尾の魅
力を SNS 等で積極的に発信していきます。また、地域の方と
の食事会や手毬づくりをきっかけに、より交流を深めていきた
いです。

活動目標の達成状況

【地域活動について】

目標：定期的に栃尾を訪問し、栃尾の雰囲気を感じるとともに、地
域の方々と積極的なコミュニケーションを図る。発見した魅力は X (旧
Twitter) などの SNS を活用し発信する。地域の方々と会話を通して栃
尾の魅力や歴史を学び、私たちの思いも共有する。企画を自分たちで考
える際は、地域の方とこまめに連絡を取り、栃尾の魅力をさらに認知し
てもらえるものを考える。

◆成果

- ①地域の方々と交流を深めながら「栃尾の魅力」を発見できま
した。地域の方との食事の機会は 5 回以上ありました。特に、
初回訪問やユニホッケー交流会では、栃尾の特産物を振舞っ
ていただき、栃尾の魅力も体感する貴重な時間でした。その後、
郷土料理作り体験会では商工会青年部の方と学生があぶらげ
の魅力を引き出そうと試行錯誤・意見交換できました。
- ②「あいホーム」を知っていただき、栃尾への思いを伝えるこ
とができました。全 7 回の地域訪問を行いました。とちお祭や
遊雪まつりに加え、今年度だけのシモシオノアカリにもお声が
けいただきました。そこでは「下塩メモリアルランタン」を企
画し、来場者の下塩小へのメッセージを通じて会話が生まれま
した。遊雪まつりでは私たちが感じた栃尾の魅力や栃尾への思
いをメッセージカードにしてお渡しできました。

◆課題

交流の機会を活かしきれず、SNS での発信をしなかったた
め、I ホームの認知度は栃尾内でも伸び代があると思います。

【ホーム運営について】

目標：ミーティング時にいろいろな人から意見をもらったり、一年を通
した役割分担をしたうえで活動の計画に入ること、限られた人に仕事
が集中しないようにし、栃尾との交流を促進する。各活動の計画時には
目的を共有し、目的意識をもって活動するようにする。

◆成果

- ・年度初めに各地域活動の分担を行ったため、準備を始める際
に連絡がしやすく、1 人当たりの負担も抑えられました。
- ・「栃尾の皆さんが栃尾への誇りを持てるように」という活動
目的を 8 月に決め、それ以降の企画に反映できました。

◆課題

- ・目的意識を持って活動できていない時がありました。
- ・行程表作成が遅れ、イベント参加のキャンセルがありまし
た。

活動を通して学んだこと

私が活動を通して学んだことは日常の中にあるものに疑問を持つことです。ダブルホームの活動を通して身の回りのものに「なぜこれはここにあるのか」「どんな背景があるのか」など考えるようになり、そこからまだ見つけていなかった栃尾の魅力を発見できたと思います。

山内 光姫（人文学部 1 年）

笑顔と活力を沢山貰い、時に頭フル回転な最高の一年を経験させていただきました。栃尾の方の深い思い、教職員・フェローの方の後押し、そして先輩方の安心感、ヒシヒシ感じる 2 年生の心強い能力の数々、明朗快活な 1 年生の新たな風、どれも感謝ばかりです。本当に有難うございました！

笹原 知優（工学部 2 年）

今年度は他ホームとの活動を計画、実行するという新しい試みがあり、入念な準備とこまめな連絡の重要性を学びました。他ホームとの活動は新しい考え方を学べたり、人脈を広げることができるためぜひ継続して欲しいです。

川野 由歩（経済科学部 3 年）

今年度はユニホッケー交流会と郷土料理づくり体験会という新しい活動に参加しましたが、地域の方々の温かさを再認識すると共に、活動の幅が広がっていることを実感しました。DH 活動を通して、栃尾の魅力をたくさん知ることができました。4 年間本当にありがとうございました。

阿部 春奈（経済科学部 4 年）

今後に向けて

今後の活動では、より多くの方に I ホームの存在や活動を知っていただくことに加え、栃尾の今ある資源を魅力に感じ、それを誇りに感じられる輪を広げていきたいと考えています。そのためにも、積極的な SNS の運用や貴重な地域活動の機会を活かした I ホームやダブルホーム活動の PR など、より多くの方へ私たちの活動を届けられるように試行錯誤していききたいと思います。また、そうして多くの方と関わり、繋がりを広げていくことが、新たな栃尾の魅力を発見するチャンスへと結びついていくはずで。そこで感じた魅力や思いを地域の方に私たちから届けることで、「栃尾の皆さんが栃尾への誇りを持っている」という活動目的に近づけたらと考えています。

一方、ホーム運営の面では、SNS の活用を継続し、新たな活動を行いたい場合に取り組みやすくするために、基本的に毎年共通するものに関してマニュアルを作成するなどして、必要な仕事の効率化を図っていききたいと考えています。また、企画や活動の準備の動き出しを早くし、貴重な地域活動をより有意義なものにしていけるよう、振り返りを行い、「改善していく」意識を持って取り組んでいきたいと考えています。

活動地域より

少子高齢化が著しい栃尾。そこにあいホームはイベントや魅力発信を始めとする様々な活動で活躍しています。学生が楽しむことが地域の活力となり、楽しいは継続の力となります。学生を楽しませるアイデアを考えることもまた楽しく、今度は皆さんとどんな体験が出来るか期待に胸が膨らみます。

栃尾観光協会 島 和久 様

担当教職員より

今年はシモシオノアカリや他ホームを巻き込んだユニホッケー交流会など、活動の幅が広がった一方で、トチオノアカリへの参加など、課題も残る 1 年になりましたね。失敗は繰り返さず、良いところを伸ばしながら、みんなで充実した活動にしていきましょう！

総務部総務課 櫻井 洋資

活動記録（2024 年 4 月～2025 年 3 月）

4 月	大説明会
5 月	
6 月	初回訪問
7 月	地域活動中間報告会
8 月	栃尾祭り
9 月	シモシオノアカリ in 下塩小学校
10 月	
11 月	ユニホッケー交流会
12 月	ダブルホームシンポジウム 郷土料理作り体験会
1 月	
2 月	
3 月	保育園訪問



12 月 8 日 郷土料理体験会



2 月 2 日 遊雪祭り



ホームの概要

メンバー構成： 1年生 9人、2年生 6人、
3年生 3人、4年生 2人、
教員 2人、職員 1人

活動地域： 加茂市

関連団体： plat KAMON ぷらかも♪
等

ミーティング： 平日昼休み週 1 回程度

成果物・制作物



10月13日 新潟大学行ってみたいカモツアー

昨年度に引き続き 2 回目の開催となりましたが、参加者である中学生の人数が増えたほか、サークル等の見学内容もより充実させることができ、実りある 1 日になったと思います。



10月19日 カモナイトバザール

初めて参加させていただいたこのイベントでは、K HOMEとして「お化け屋敷」を企画・実施しました。子供たちをはじめ、多くの方に好評を得ることができ、大きなやりがいを感じることができました。

活動目的と概要

私たち K HOMEは新潟県加茂市で活動を行っています。加茂市は「北越の小京都」と呼ばれており、美しい自然と駅から続く商店街があり、自然と暮らしやすさが融合した魅力溢れる地域です。また、地域の方々同士の結びつきが強く、地元愛にも溢れています。そんな加茂市で私たちは地域のイベントに参加するだけでなく、「私たちにしかできないこと」を常に考えながら K HOME独自の多様なイベントを企画・運営し、地域の魅力を伝える広報活動にも力を入れています。

活動目標の達成状況

【地域活動について】

①地域との交流を深める②新たな活動の軸を作る③新企画を継続するという三つの目標を立てました。①については、地域の方に顔と名前を覚えていただくべくプロフィールを作成し、また今まで関わりがなかった地域の方との交流に力を入れることを目標としました。この点については、新たに児童クラブで子どもとの交流活動を実施したり、ナイトバザールにおいて独自企画を行うなどし、新たに繋がりを構築することができ、成果を感じています。一方で、顔と名前が一致するまでには至っていないため、この点は今後の課題であると考えています。②については、従来の活動の軸であった「AKARIBA」の中止に伴い、新たな活動の軸を作るべく、今年度は新企画含め様々な活動を行いました。各企画についてご好評をいただき、達成感を感じています。今後はこれらを踏まえ、私たちの本当に大切にしたい思いを見極めたうえで、活動の軸の解像度をさらに高めていきたいと考えています。③については、昨年度から新たに実施した出張大学オープンキャンパスや加茂フリマの企画を、反省を踏まえつつより良いものにしたいという思いが込められており、昨年度地域の方からいただいたフィードバックや去年の反省点を踏まえ、さらに良い企画を生み出したことに達成感を感じています。

【ホーム運営について】

活動ごとに目的を決め、振り返りを行うと同時に、地域の方からフィードバックをもらうことで、次につながる活動にするという目標を定め、質の高い振り返りができました。今後は、反省点をその活動だけでなくほかの活動にも活かし、さらに活動の質を高めたいです。次に、K HOMEでの存在意義を感じてもらえるように、イベントごとにリーダーを設け、リーダー中心に役割分担を行うという目標に対しては、概ね実現できたと考えています。これによって仕事が一人に偏ることも減りました。しかし SNS 運営については役割分担しておらず、投稿が著しく減ってしまったため、今後の課題であると考えます。最後に、より良い関係性を築くため、ご飯会等の機会を積極的に設けるという目標については、各イベント後などにそのような機会を設けることができ、おおむね達成できました。今後はメンバーだけでなく地域の方ともより良い関係性を築くための機会を作りたいです。

活動を通して学んだこと

加茂市の人と対話や交流を重ねることで、どんなことがダブルホーム生に求められているのかが鮮明になりました。また、イベント参加だけで地域貢献を終わらせるのではなく、継続的に加茂市と関わる機会を作ることが、ダブルホーム活動をより良いものにしていく第一歩だと学ぶことができました。

齋藤 心誉（人文学部1年）

この1年は去年に比べてより多くの地域の人と関わる事が出来、様々な活動をさせていただきました。活動を通して加茂のことを知る中で地域で暮らしてきた人の生活を守り、未来につながる活動を行っていきたいと考えました。

山根 美和（医学部2年）

Kホームメンバーのほとんどが揃った状態で加茂市にかかわる活動を行えたことが収穫でした。活動への参加人数が多かったことでKホームの学生が生み出す楽しさと地域の方々の思いとをより広く、より多く共有することができたのではないかと思います。

池田 和（教育学部3年）

今後に向けて

今年度の地域活動では、より積極的に地域に赴き、住民の皆さんとの交流を深めることを大切にしたいと考えています。そのためには、活動の進捗を地域の方々に適切に伝え、活動報告を受けやすい仕組みを整えることが重要です。現在、地域の方々との連絡がスムーズにいかないことがあり、それが課題となっているため、情報共有の方法を改善し、双方向のやり取りができる環境をつくります。

また、活動の幅が広がる中で、すべての要望に応えるのは難しいため、取捨選択を行い、より効果的な活動を進めていきます。その際、参加者全員が活動しやすい環境を整え、特に1年生が馴染みやすく、楽しめるような工夫をしていきたいです。新しく加わるメンバーが地域活動の魅力を感じられるよう、サポートを充実させます。最終的には、これらの取り組みを通じて、加茂市の可能性をより高め、地域全体が活性化することを目指します。今年度の活動が、地域にとっても、参加者にとっても意義のあるものとなるよう、尽力していきます。

活動地域より

R6年度は、学生さんが何回も加茂に来てくれ、子どもたちや市民のみなさんとたくさん交流できた活発な一年でした。大きなイベントは楽しいですね！更に来年度は、市民と学生さんと協力しながら継続できるスタイルの活動も、一緒に作ってやりたいですね！

加茂市 乙川 智子 様

担当教職員より

Kホームのこの1年は挑戦に満ちていました。ありがたいことに、加茂の方々から様々なご要望をいただくようになり、活動の幅も広がっています。大切なのは、個々の活動に対する想いを加茂の方々と学生とでしっかり伝え合うこと。Kホームを大学生と加茂の方々の素敵な共創の場としていきましょう。

教育基盤機構 樋口 健

活動記録（2024年4月～2025年3月）

- 4月 大説明会
- 5月
- 6月 まちあるき
- 7月 地域活動中間報告会
- 8月 小学校との夏休み企画
- 9月
- 10月 ナイトバザール
新潟大学行ってみたいカモツアー
- 11月 カモフリマ
- 12月 ダブルホームシンポジウム
- 1月
- 2月
- 3月



6月8日 まちあるき



11月2日 カモフリマ

**ホームの概要**

メンバー構成： 1年生 8人、2年生 6人、
3年生 6人、4年生 4人、
教員 3人、職員 1人

活動地域： 新潟市西区坂井輪中学校区

関連団体： 坂井輪中学校区まちづくり
協議会

ミーティング： 平日昼休み週 1 回程度

成果物・制作物**プラスチックコップを使った風鈴**

8月7日の子ども食堂で子どもたちと一緒に作ったものです。

**スノーボトル**

1月6日の子ども食堂で子どもたちと一緒に作ったものです。

活動目的と概要

私たち L ホームの活動目的は「学生と地域の方のつながりを作り、広げていく」です。子ども食堂では、工作などの遊びを通して子どもたちと交流しています。その他、花植え、餅つきなどに参加し、幅広い年代の方々と交流しています。L ホームの活動は、普段の大学には無い、貴重な体験ができるだけでなく、地域の方々の温かさや情熱を日々感じ、自分自身の成長に繋げることができ、L ホームの魅力でもあります。

活動目標の達成状況**【地域活動について】**

今年度は①子ども食堂で企画する遊びをより充実したものにすること、②子どもだけでなく地域の幅広い年代の方々と交流できる活動を実施すること、③SNS を活用するの 3 点を活動目標としました。まず、①の目標に関しては、概ね達成できたと考えます。今年度子ども食堂で企画した遊びは昨年よりも好評だった水遊びに加え、スノーボトル作りやポッチャなど子どもや女性支援隊の方から良い評価をいただいた遊びが増えました。次に②の目標に関しては、概ね達成できたと考えます。今年度は花植え、餅つきなど子ども以外の幅広い年代の方と交流できる企画が増えました。最後に③の目標に関しては、今年度中には達成できませんでしたが、来年度からの実施に向けて現在準備中です。

【ホーム運営について】

今年度は①活動前の計画、活動後の振り返りの徹底、②仕事の分担・共有の徹底を目標としました。まず、①の目標に関して、活動前の計画については概ね達成できたと考えます。年度始めにまち協の年間行事計画を参照しながら、今年度はどの活動に参加するかをミーティングで話し合い、まち協の方々と相談した上で今年度の活動計画を立てることができました。しかし、活動後の振り返りに関してはまだ改善の余地があると考えます。今後は活動後の振り返りをミーティングで行い、活動に参加して良かった点、改善点等をホーム全体に共有し、次年度の活動に引き継ぐ体制を整えたいです。次に②の目標に関して、概ね達成できたと考えます。メイン活動である子ども食堂では各日程にリーダーを割り当て、遊びの企画・準備等を行うなどなるべく全員に仕事が割り振られるようにできていました。春休みの子ども食堂では 1 年生中心に仕事を進めてもらうなど、下級生にも活躍の場を与えられるような体制がとれていました。

活動を通して学んだこと

他学部の先輩や地域の人とのコミュニケーションを重ね、子ども食堂をはじめとするホームの活動をより良いものにして、楽しい時間でした。新規かどうかにかかわらず企画を運営するに当たって、色んな気遣いがあり準備があることを実感できたことを今後活かせるようにしたいです。

長山 颯太（農学部1年）

この活動を通して、組織のあり方、地域活動の重要性を学ぶことができました。行事の組み方、運営の方法、どのように成り立っているのかを理解できました。そして異なる年代とのコミュニケーションを通して、多様な価値観を得ることができました。この経験をもとに、さらに活動をより良くしたいと考えています。

三瓶 亜衣奈（法学部3年）

ダブルホーム活動を通して、地域の自治体がどのように運営されているのか知ることができました。いつもお世話になっているまちづくり協議会の皆さんは地域を良くしたいという熱い思いをもって活動に取り組んでいるので、私たち学生もその思いに応えられるよう、頑張ります。

村上 空（法学部2年）

今年度から初めてダブルホームの活動に参加してみて、地域・社会には様々な課題があることを実感できました。そのような実感を持つにあたって、何か世の中で起こっていることを身を以て把握するには、当事者や関係者の方々と直接関わってみることが重要なのだと思いました。

松本 泰弦（医学部4年）

今後に向けて

今年度の活動目標の達成できた部分は来年度も継続して達成できるようにし、達成できなかった「活動後の振り返り」と「SNSの活用」に関しては、来年度は達成できるよう継続して目標にしていきたいと考えます。また、来年度はLホームの地域活動への参加率をあげることを新たな目標として設定していくことにします。シンポジウムや年度末の振り返り会の際に、まち協の方々からもっと積極的にたくさんの活動に参加して欲しいという意見をいただいたことを踏まえ、この目標を設定することとしました。Lホームとしての信頼を築くためにも一つひとつの活動に責任をもって参加するよう周知していきたいです。

活動地域より

能登半島地震により当協議会管内も大きく被災する中、地域・事業活動が制限される事態となりましたが、この限られた環境でも沢山のLホームメンバーから、子ども食堂をはじめとする様々な活動に協力・参加をいただき有難うございました。Lホームとしての本来の目標はできたでしょうか。新年度はなお一層上を目指し、より多くのメンバーと共に積極的かつより広範な活動ができることを期待します。

坂井輪中学校区まちづくり協議会会長 梶原 宜教 様

担当教職員より

地域の方々との交流や活動の経験は、今後社会や実生活で活きる実践的なコミュニケーション機会です。一緒に活動してくださるまち協の皆さまへ感謝するとともに、子ども食堂での活動を軸に、様々な活動に参加しながら、さらに地域の輪を広げていきましょう。

創生学部 澤邊 潤

活動記録（2024年4月～2025年3月）

- 4月 大説明会
- 5月
- 6月 まちあるき、顔合わせ
- 7月 地域活動中間報告会
- 8月 子ども食堂（7月～8月）
- 9月 坂井輪まつり（台風により中止）
- 10月
- 11月 花植え事業
- 12月 ダブルホームシンポジウム
餅つき大会
- 1月 子ども食堂（12月～1月）
- 2月 1年の振り返り会
- 3月 子ども食堂（～4月）



6月16日 まちあるき



11月9日 花植え事業



ホームの概要

メンバー構成： 1年生 8人、2年生 7人、
3年生 5人、4年生 3人、
修士以上 2人、教員 2人、
職員 1人

活動地域： 新潟市万代地区

関連団体： NST 新潟総合テレビ

ミーティング： 平日昼休み週 1 回程度

成果物・制作物



Instagram アカウント

自分たちが感じた魅力などを、紹介していくという形で、発信をしていきました。



NST まつりブース

新大と NST のコラボ感のあるブースを出展しました。

活動目的と概要

新潟市中央区にある万代シテイを拠点に地域の魅力を発信すること、他ホームとの連携によるダブルホーム活動全体の情報発信をすることを目的としたホームです。

今年度は、NST 新潟総合テレビや、万代シテイの皆様方と共にイベントへの参加を行いました。また、SNS を活用した万代の魅力発信、魅力を一緒に巡れるようなツアー企画の考案等も行いました。来年度は、ショート動画などを活用した SNS 発信や、ツアー企画などホーム外ともつながれる発信を考えていきます。

活動目標の達成状況

【地域活動について】

今年度の地域活動の目標は、①万代の魅力発信を N ホーム所属学生自身ができるよう、SNS 発信の体制を整える。

②N ホームとして長期的・定期的に万代地区と関わることができるようプロジェクトを考え、何か一つ実践する。でした。一つ目の目標としていた SNS 発信の体制を整える、について昨年度作成し、あまり投稿できていなかった Instagram で、街歩きの様子や NST まつり、おすすめ情報の発信を行い、SNS 発信頻度を昨年より上げることができました。来年度は、投稿の型を統一することと、ショート動画企画なども考案していきたいと思います。二つ目の長期的・定期的に万代地区と関わるプロジェクトは、企画について何度か候補を考えましたが実践につながらず、引き続き来年度の目標としていきます。しかし、毎年関わっている NST まつりでは昨年度よりも学生からの考えを反映した企画を NST さま協力のもと行うことができました。N ホームメンバーにとって自主性のある企画を立案、計画、実行していくことをより意識できた年になりました。

【ホーム運営について】

今年度のホーム運営における活動目標として、①N ホームでの活動とそれぞれ他の活動を両立しながら、お互いに良い影響を与え合える存在であるよう努力する。②学年に関わらずに、各々のやりたいことやアイデアを気軽に出来るような関係を築く。③万代でのフィールドワークを中心に現地での学びや気づきを大切にする。また、活動を定期的に行い定着させる。の三つを上げていました。

まち歩きや、イベントの活動を通して学年関係なく、アイデアを出し合って運営していくことができました。フィールドワークを通して見つけた気づきや学びも SNS の発信に活かされたと感じています。しかし、運営、報告会、オープンキャンパスなどの役割分担場面で一部の人に作業量などが偏ってしまっていたと感じます。両立して活動するという点で全員が行えてはいなかったと感じます。来年度は全員の意見と協働を心掛けていきたいです。

活動を通して学んだこと

自ら動かなければ何も始まらないことをNホームで学びました。Nホームは恒例の活動が少なく、待っているだけでは何もできません。来年度は積極的に行動し、地域の人々と関わりながら活動に参加したいです。地域とのつながりを深め、Nホームが万代地区を盛り上げる一助となるよう頑張ります。

本間 琢磨（教育学部1年）

今年もNSTまつりに参加し、昨年度とは違う関わり方を経験でき、ひとつブースを行うにも、試行錯誤が必要で、独自のイベントや企画はより工夫が必要だと感じ、来年度は地域の魅力を知りながら、どんな工夫ができるかを考えていきたいと思いました。

峯田 彩羽（経済科学部2年）

「NSTまつり」に今年度はブースを出展することで参加しました。新潟大学の生協さんにも協力をいただいて、なんとかやり遂げることができました。イベントを作り上げる達成感、物を売るまでの過程の大変さを少しでも感じ取れ、いい経験になりました。

佐藤 光太郎（人文学部2年）

ダブルホームの情報発信活動を通じて、効果的な発信方法を学びました。社会人の協力を得ながらプロジェクトを進める中で、学生として何ができるかを考え、社会人が求める発信のポイントや伝え方の工夫を理解することができました。

山崎 青葉（経済科学部3年）

今後に向けて

今年度の活動、シンポジウムや振り返りを通して、私たちNホームの課題は、通年の活動が決まっていなかったと感じました。今年度もこれまで同様にNSTまつりに参加させていただきましたが、参加形態は毎年異なってしまうという反省から、活動の軸・方向性になるような活動を決めて実行したいと考えています。そのため、来年度ははじめの今後の活動としては、新入生も踏まえたフィールドワークなどを通して地域でどんな活動ができるかを考え計画し、実践していきたいです。また、万代だけではなく古町にも活動を広げ、より新潟市中央区の魅力を知り中央区との関わりを増やし、盛り上げていきたいと思っています。

もう一つの目標としては、SNSの活動をより活発にし、ショート動画や、学生目線での紹介などで魅力が伝わる工夫をしながら、魅力発信をしていきたいと思っています。唯一の中心部のホームとして、他ホームと繋がり、関わりのあるハブ的役割もできるような発信も考えて生きたいと思っています。

活動地域より

今年度も万代地区を盛り上げてもらいありがとうございました。皆さんと活動することで今の大学生年代が求めるモノ・コトに対するリアルな声を拾うことができ、それはまさに万代地区が求めている客層でもあります。今後も忌憚のない意見交換、活動への協力を宜しくお願いします。

株式会社NST 新潟総合テレビ 斉藤 信明 様

担当教職員より

6月の街歩きでは、先輩方がクイズラリーを企画し1年生をリードしながら万代シテイを散策。9月のNST祭では、ステージ正面のブースで新潟大を猛アピール。クリスマスに向け、みなとぴあや笹団子見学など、新たなツアー企画。また一步、あゆみを進めるNホームの活動が楽しみです。

工学部 菅原 晃

活動記録（2024年4月～2025年3月）

4月	大説明会
5月	
6月	まち歩き
7月	地域活動中間報告会
8月	
9月	NSTまつり
10月	
11月	
12月	まち歩き ダブルホームシンポジウム
1月	
2月	
3月	



6月23日 新入生初回まち歩き



9月29日 NSTまつり



ホームの概要

メンバー構成： 1年生 7人、2年生 3人、
3年生 2人、4年生 3人、
修士以上 2人、教員 2人、
職員 2人

活動地域： 村上市早稲田地区

関連団体： なし

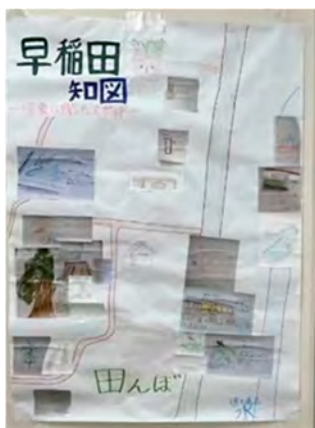
ミーティング： 平日昼休み週 1 程度

成果物・制作物



看板・チラシ

新大祭出店のため制作しました。多くの方に早稲田について知ってもらいたい機会になりました。



早稲田知図シート

ダブルホーム入門Ⅱの講義で作成しました。制作されたものを通して地域について知ることが出来ました。

活動目的と概要

Q ホームは、自然豊かな村上市早稲田地区を活動拠点に、早稲田地区で暮らす地域の方々の想いや、地域そのものへ理解を深めることを目的として活動しています。今年度は、三吉様参拝やお花見会などで、早稲田の雄大な自然を肌で感じ、しめ縄づくりやオの神などでは、地域の伝統やそこに暮らす人々の想いに触れることができました。来年度は、早稲田地区の魅力である「自然・人・伝統」が発揮されるような企画の立案・実行を目指します。

活動目標の達成状況

【地域活動について】

今年度の目標は、①『地域活動への積極的な参加』②『地域とのつながりを保つこと』③『チャレンジ企画の早期計画と実行』の3つです。①については今年度もたくさんの地域活動を行えたのでおむね達成できたと思います。②については、地域活動のときには学生が率先して地域の方と交流していたため達成できていたと思います。一方で、地域活動がないときには代表の地域の方との電話やメール、ショートメッセージ等の連絡手段しかなく、交流が少ないといえます。来年度は発行していなかったかわら版を復活させるなどして地域とのつながりをさらに強めていきたいです。③については、今年度は天王様や節分祭といった新たな行事にチャレンジすることができました。しかし一方で、夏休み企画を今年も実行できなかったという課題もありました。この理由として学生の帰省する時期と重なるということがあるため、来年度は日程を早く決めて学生が予定を開けるようにするか、実現可能なことを考えるといった工夫をして実行したいと考えています。

【ホームの運営について】

ホーム運営について今年度の目標は以下の三つです。

1つ目は早稲田地区に貼る Q ホームメンバーの自己紹介ポスターを更新することです。この目標については、ポスターをデータで制作したものの印刷し、地域に持っていくことが出来ませんでした。

2つ目は月に1回ほどのペースでミーティング以外のホームで交流する機会を設けることです。メンバーの予定が合わず、なかなか食事会を開くことは出来ませんでした。しかし、毎週のミーティングや地域活動で十分に、ホーム内の結束を強めることが出来たと感じています。

3つ目は各タスクに合わせた係をつくり、Q ホーム全体での組織運営を目指すことです。みんなで役割を挙げて、話し合い、タスクの分担を行うことが出来ました。しかし、実際にタスクをしてみると、タスクの負担が人によって異なっている為、改善していく必要があります。一方で、地域活動ではタスクの抜けを活動日の直前に気が付くことがありました。当日の役割分担だけでなく、準備の段階でも係を決めるべきだと感じます。

活動を通して学んだこと

ダブルホーム活動を通じて、地域とのつながり・関わり合いを学ぶことが出来ました。これからは自分自身が主体的に行動して、地域を盛り上げていきたいです。

川面 貴志（理学部1年）

初めて早稲田に行って、早稲田の魅力をたくさん知ることが出来て良かったです。また、行事を通して、地域の方々ひとりひとりに地域に対する強い想いがあることを知りました。その想いにこたえられるように努力していきます。

保科 歩花（医学部1年）

昨年度から継続して参加した行事、また今年度新しく参加した行事、どちらからも新たな発見が得られ、昨年より多くの方々と関わりお話しすることが出来て実りある1年となりました。地域の皆様、Qホームの皆さんありがとうございました！今後も早稲田地区に関して深く知っていきたいと思っています。

畑野 美紀（経済科学部2年）

4年間早稲田地区の方々には大変お世話になりました。地元とは異なる地域に深くかわり、そこに住む方々とあらゆる形で交流したことで、伝統文化の重要性や人々の温かさに触れることが出来ました。本当に人生に二度とない貴重な経験ができたと思います。ありがとうございました！！

山岸 虹太（創生学部4年）

今後に向けて

今年度も数多くの伝統行事に参加させていただいたことで早稲田の自然の魅力や人の温かさを感じられた一方、課題として、チャレンジ企画を実現できなかったことや地域との連携不足、ホーム内での情報共有不足が挙げられます。こうした課題を踏まえ、来年度は学生側からの主体的な行動を意識するとともに、かわら版の再出版を考えています。また、今年度は実現できなかった夏休みチャレンジ企画の実現に向け、地域の皆様と対話し、内容を吟味していきたいと考えています。対話の内容は、できるだけ地域の方のお言葉を変えずにホーム内で共有するように努めます。さらに活動参加率を上げるため、学生の楽しさを創出する工夫を意識した企画を行っていきます。来年度も引き続き早稲田の魅力を生社会に発信し、地域に貢献できるよう精進してまいります。そのため各種SNSの更新頻度を増やし、積極的なPR活動を行っていきます。今後とも我々Qホーム、そして、村上市早稲田地区をよろしく願います。

活動地域より

知らない土地の知らない人とコミュニケーションをとることによって、人間の持つ中途半端な能力のうちでも高度なレベルの部類です。それを繰り返すことによって、より早く簡単に正確に無意識のうちにできるようになります。教科書問題の数千倍の要素が隠れているかもね。楽しく頑張れ！

村上市早稲田地区 区長 富樫 光七 様

担当教職員より

早稲田地区の方々とは相談しながら、活動の企画・運営を行う学生の姿は頼もしかったです。個人的には三吉様の登山後に、初めて熊汁を食べたことが印象に残っています。自然豊かな場所でQホームの皆さんとの活動を通じて、良い経験ができました。

医学部 田口 めぐみ

活動記録（2024年4月～2025年3月）

- 4月 大説明会、お花見
- 5月
- 6月 三吉様参拝
- 7月 地域活動中間報告会、しめ縄づくり、子供神輿
- 8月
- 9月 早稲田敬老会
- 10月 新大祭、収穫祭
- 11月
- 12月 ダブルホームシンポジウム、クリスマス会
- 1月
- 2月 節分祭、振り返り会
- 3月



7月14日 子供神輿



2月9日 節分祭



ホームの概要

メンバー構成： 1 年生 7 人、2 年生 7 人、
3 年生 3 人、4 年生 3 人、
修士以上 2 人、教員 2 人、
職員 1 人

活動地域： 阿賀町七名地区

関連団体： 阿賀町上川支所、
NPO 法人 七福の恵

ミーティング： 平日昼休み週 1 回程度

成果物・制作物



地域散策で訪れた大尾不動滝

滝のふもとまで行くことができ、そこから
見える滝の景色は迫力満点です！



蕎麦打ち体験

今年は、上川そば祭りで蕎麦打ち体験を行
いました。自分たちで種を植えて収穫した
そば粉を使った蕎麦は格別においしかった
です！

活動目的と概要

私たち R ホームは、山々に囲まれた自然豊かな阿賀町七名地区を活動の拠点としています。七名地区はそばが有名で、従来私たちはそば作りを中心に一年間活動します。種まきから収穫、唐箕がけを経てそば粉にし、最後は自分たちで収穫したそば粉を使ってそば打ち体験を行います。また、七福の里祭りや上川そば祭りなどのお祭りにも参加し、地域の方との交流を深めます。

活動目標の達成状況

【地域活動について】

今年度の目標は、「より多くの地域の方々とそば作りを通して深い関わりを持ち、外部の人間としてではなく地域の一員として活動すること」でした。今年は、昨年度実施できなかった「そばの実の収穫」と「そば打ち体験」を実施することができ、例年以上にそば作りという一連の活動を通して、地域の方と深くかわり、地域の一員として活動することができました。また、昨年度よりも活動に参加する学生の人数が増え、より多くの学生が地域の方と関わりを持つことができた実感しています。しかし、活動によっては学生の人数が少ないものもあったため、全ての活動に対しメンバー全員が参加するようなホームにするということが課題であると感じました。そのため、来年度は他ホームとの交流も視野に入れて学生の積極的な参加を目指したいと思います。

【ホーム運営について】

ホーム運営の目標として今年度は大きく 2 つの目標を立てました。まず 1 つ目は「地域訪問以外の活動（オープンキャンパスやシンポジウムなど）の学生の出席率を向上させる」2 つ目は「先輩から後輩への情報継承をしっかりと行う」です。1 つ目の「地域訪問以外の活動への学生参加率を向上させる」という目標の達成は不十分であったと感じています。シンポジウム等の準備に関しては、メンバーで協力しながら上手く進めることができたと思いますが、依然としてイベント当日の参加率が低いことが課題であると感じました。

2 つ目の「先輩から後輩への引継ぎをしっかりと行う」という目標は 8 割型達成できたと感じています。今年度は、3 年生から 2 年生へと代が変わる際に引継ぎ資料を作成したことによって、口頭だけでは伝え漏れがあるような内容に関してもしっかりと引き継ぐことができたと思います。100%達成に至らなかった原因は、2 年生へと引継ぎを行いました、その 2 年生の参加率があまりよくなかった点にあると感じています。また、1 年生にも引継ぎの情報共有を行いました、結局 3 年生が作業を行っているという現状であったため、来年度は情報共有を行う側と受け取る側、両者が責任をもって役割を果たすことが大切であると感じました。

活動を通して学んだこと

私は、人とのつながりの大切さを学びました。今まで同学年と関わる機会はありませんでしたが、歳の離れた人との関わりは初めてで、新たな視点を得ることができました。地域では、年齢差などは関係なく思いやりを持って人とつながるという、とても大切な経験ができたと思います。

清野 美咲（農学部 4 年）

R ホームでの活動を通し、阿賀町や上川地区の方々の温かさに触れることができたと思います。「大学生が活動に来てくれて嬉しい」との言葉をいただいたり、活動後には郷土料理をご馳走していただいたり、特産物だけではない地域の魅力を知ることができました。

塚田 早紀（人文学部 3 年）

私はダブルホームの活動を通してチームには多様な視点が重要であることを学びました。ダブルホームでは他学部の学生、教職員、地域の方と一緒に活動します。そのため、活動やミーティングでは複数の視点から意見を聞くことができます。このように話し合うことで課題への解決策が考えやすくなり、活動の振り返りも充実していると感じました。

大田 朋佳（医学部 1 年）

私は七福の里祭りへの参加や地域の魅力を感じる活動の中で、地域の方々と関わり、地域の思いやこれからを模索するという経験から、地域と向き合い課題を解決することの重要性と地域を学生視点からよりよくしていく際の難しさを学びました。

丹治 璃空（経済科学部 1 年）

今後に向けて

来年度の目標は大きく 2 つあります。1 つ目は「阿賀町のお家との交流」2 つ目は「役割分担の見直し」です。

1 つ目の「阿賀町のお家との交流」は、R ホーム内の交流を図るとともに七名地区以外の地域も知る機会を作ることを目指し考えました。具体的には、阿賀町で宿泊を行ったり他ホームの地域散策に参加したりなど、ホーム内で話し合うことはもちろん、他ホームとの輪も広げたいと考えています。また、阿賀町も協力してくれるとのことのお言葉をいただいたので、学生、地域の方を巻き込んだ活動を新たに行いたいと考えています。

2 つ目の「役割分担の見直し」については、ホーム長だけが負担を抱えるのではなく、みんなで仕事を行うことによって、負担の軽減はもちろん、一人一人が責任を持つことで活動の参加率向上も図れるのではないのかと考え、この目標を立てました。

ダブルホームの活動を楽しむことは大前提としつつも、一人一人が役割を持って活動に取り組むことでホーム全体で活動を盛り上げていけるよう取り組んでいきたいと思っています。

活動地域より

今年は、天候にも恵まれ、そば作りの目標であるそばの種まきから蕎麦打ちまでの一環活動を完結させることができよかったですね。七福の里が少しでも元気になるよう皆さんの更なる活躍を期待しています。

阿賀町上川地区 石川 久作 様

担当教職員より

今年は蕎麦打ち、試食まで行い、充実した活動になったのではないのでしょうか。阿賀町の方々がダブルホームの活動が活力につながっていると仰っていたことが印象的で、今後はさらにホームメンバー間で交流を深め、ホーム活動の activity を上げることで更なる地域貢献につなげていきましょう。

農学部 三亀 啓吾

活動記録（2024 年 4 月～2025 年 3 月）

- 4 月 大説明会
- 5 月
- 6 月 七福の里祭り
- 7 月 地域散策、地域活動中間報告会
- 8 月 そばの種まき
- 9 月
- 10 月 そばの実収穫
- 11 月 蕎麦打ち体験、上川そば祭り
- 12 月 ダブルホームシンポジウム
- 1 月
- 2 月
- 3 月



8 月 3 日 そばの種まき



10 月 13 日 そばの実収穫



ホームの概要

メンバー構成： 1年生 6人、2年生 4人、
3年生 3人、4年生 1人、
修士以上 1人、教員 3人、
職員 2人

活動地域： 阿賀町中ノ沢地区

関連団体： NPO 法人 お山の森の木の学校

ミーティング： 平日昼休み週 1 回程度

成果物・制作物



しめ縄

手のひらで藁を転がしながらねじるようにして編んで作ります。初めてのメンバーが多く、地域の方に一から教えていただき、作りあげました。



きのこの炊き込みご飯

分校の外で釜を使って、地域の方に教えてもらいながら炊き込みご飯を作りました。おこげがついてとても美味しかったです!

活動目的と概要

S ホームは阿賀町中ノ沢地域で活動しています。中ノ沢の皆さんは、自然豊かな穏やかな環境で私たちを温かく迎えてくださいます。さいの神やかや刈りをはじめとした伝統的な地域活動等を通して、交流させていただき、貴重な体験を多くすることができます。私たちは、地域の四季の変化に触れながら地域の方々との交流を第一とにかく楽しむことを念頭に活動を行っています。さらに、そこで得た中ノ沢の新たな魅力や発見を発信していきます。

活動目標の達成状況

【地域活動について】

今年度の地域活動の目標は三つありました。

一つ目は、「中ノ沢の『好き』を見つける。また、学んだことや感じたことをかわらばんなどを通して地域の方々に還元し、さらに中ノ沢の魅力発信につなげる」です。複数回の訪問を経て、ホームメンバー各々が中ノ沢の人々の人柄や自然環境といった中ノ沢地域の好きなどところを見つけることができました。かわらばんの発行は訪問後に行っていましたが、地域外に発信することは少なかったため、改善の余地があります。

二つ目は、「ホーム内の学生間、学生と地域の方の関係をこれまで以上に深める」です。限られた活動回数の中でホームと地域全体の関係を深めるには積極的に地域の方と関わる姿勢が大切であるので、地域での活動を学生間で完結させず、地域の方とより関わりやすくなる工夫が必要だと考えます。

三つ目は、「更なる発見と知識を深められるような新しい企画にも挑戦する」です。今年度は、学生が地域の方と一緒に料理をする食事会の開催、雪を用いたイベントの企画を行いました。食事会は中ノ沢の歴史や食材について新たに知ることができた良い機会でした。来年度も継続して開催できたらより良いと考えています。雪を用いたイベントは2月の訪問時に実施予定でしたが、悪天候のために実現できませんでした。

【ホーム運営について】

ホーム運営についての目標は三つありました。

一つ目は、「イベント等の担当になった人は主に全体への細かい役割分担などを働きかけ、担当者のみに負担がかからないような工夫をする」です。役割分担に関しては細かく役割を設定し、分担することができていました。

二つ目は、「各訪問やシンポジウムの担当者を明確にし、一つ一つに責任を持って取り組む」です。一つ目の目標と同様に役割分担はできていましたが、締め切りギリギリでの対応が多々あったため、来年度から改善していきたいです。

三つ目は、「Zoom でのミーティングなど、コロナ禍で学んだ運営スキルを活かして活動を行う」です。長期休みの際も Zoom を利用してミーティングを行うことができていました。しかし、対面でのミーティングよりも発言のしにくさがあるため、Zoom ミーティングのやり方は改善する必要があります。

活動を通して学んだこと

今年度は、10月にしめ縄の作り方を学び、シンポジウムではそれを活かして学生が作ったしめ縄を展示しました。地域の方々が来られた際に喜んでいただけて嬉しかったです。地域のことを知る活動はもちろん、学んだ成果を地域の方々に見ていただく活動も重要だと思いました。

北村 ひな（教育学部2年）

私は1年間この地域で活動してきて、たくさんの魅力を見ました。しかし、それらを他の人にうまく伝えられず、ホーム内で完結していました。そこから発信することの難しさを学ぶとともに、さらに魅力を見つけ伝えるという活動を意識して行いたいと思いました。

山本 日菜（農学部1年）

今年度は中ノ沢地区での活動も2年目となり地域に対する思いがより一層深まった気がしています。また同じSホームのメンバーが積極的に動いてくれたりとそのありがたみを感じた1年でもありました。今後もメンバーと一緒に地域の方々の力になれるよう尽力していきたいと思います。

横井 花音（医学部3年）

私はSホームでの活動を通して地域の人々の温かさや豊かな自然に触れ、中ノ沢の素晴らしさを学びました。また世代の異なる方との交流や豊富な伝統行事など毎回の活動はとても新鮮で、ダブルホームに入っていなければできなかった経験や学びが多く得られたように感じました。

田邊 知己（農学部1年）

今後に向けて

今年度の活動では、中ノ沢地区の好きなところや魅力を見つけるということを一つの目標として活動してきました。実際に地域に訪問し、地域の方々と一緒に活動を行う中で、各々が中ノ沢の魅力を見つけることができました。加えて、食事会や交流会を通して地域の方とのつながりを深めることができたとともに、地域の方の中ノ沢への想いにも触れることができました。何よりも活動自体を楽しむことで中ノ沢地区とのつながりをより一層深められたように思います。一方で、地域外への発信は疎かになりがちであったため、活動を通して得た経験、知識、魅力などについてSNSを通じて地域外へと発信していくことを来年度は頑張っていきたいです。また、今年度のシンポジウムで行ったしめ縄の展示のように、地域の方からいただくばかりではなく、私たちが学んだことや、私たち自身の想いを地域の方に何らかの形で還元していきたいと思っています。

今後も地域の方に「Sホームの学生が訪問してくれると嬉しい」と思ってもらえるような活動を心掛け、新たな活動の取り組みを行ってきたいと思います。

活動地域より

10月「しめ縄」上手にできましたね！神社・参道の掃除も行っていただき祭礼は滞りなく執行。シンポジウムに中ノ沢から6人参加は大きな成果。2月「さいの神」は新潟も大雪で皆さんが参加出来なかったのは残念。来年の楽しみにしましょう。

阿賀町町長 神田 一秋 様

担当教職員より

残念ながら「さいのかみ」が大雪で中止となりましたが、1年を通して充実した活動ができたと思います。今後とも「何をしたいか」「何ができるか」を問い続け、実行し、「地域の中で楽しむこと」を通して、地域、学生、教職員、卒業生の繋がりがより深まることを期待します。

経済科学部 岡戸 邦久

活動記録（2024年4月～2025年3月）

- 4月 大説明会 観桜会
- 5月
- 6月 1年生初訪問
- 7月 地域活動中間報告会
- 8月
- 9月
- 10月 しめ縄作り、ニジマス釣り
- 11月 かや刈り、食事会
- 12月 ダブルホームシンポジウム
- 1月
- 2月
- 3月



10月6日 しめ縄作り



11月4日 かや刈り



ホームの概要

メンバー構成： 1 年生 8 人、2 年生 9 人、
3 年生 3 人、4 年生 8 人、
修士以上 2 人、教員 2 人、
職員 2 人

活動地域： 十日町市松之山地区
下川手 集落

関連団体： なし

ミーティング： 平日昼休み週 1 回程度

成果物・制作物



コシヒカリ「しちべえ」

「しちべえ」とは、生き物との共生を目指し中干しをせずにつくる湿地米です。ほりごたつの 1 年の活動を通して農薬・肥料を使わず地域の方々と協働し手作業でつくりました。



ほりごたつ 10 周年イベント

今年度で、ほりごたつが下川手集落で活動し始めてから 10 周年を迎えました。祝賀会では地域の方、教職員、OBOG を交えて、これまでの活動を振り返ることができました。

十日町×しちべえ×美人林＝ほりごたつ

活動目的と概要

私たちは十日町市松之山地区下川手集落で活動をしています。主な活動として、中干しをせず農薬を使わない環境に配慮した米作りを、地域の方々と協力しながら行っています。その他にも地域の清掃活動や地域行事へ定期的に参加しました。

私たちの活動目的は「自然と共存する」ことです。そのため、米作りでは田んぼの生き物との共存を目指し、広く用いられている米作りとは違った作り方をしています。このように新潟の豊かな自然や生き物を大切に、学びながら様々な活動を行っています。

活動目標の達成状況

【地域活動について】

T ホームは、今年度の地域活動の目標を、地域の方や卒業生もご招待した 10 周年を祝うイベントの開催と、「川手地区将来プラン」の実践と設定しました。10 周年のイベントについては、10 月に地域の方や卒業生をご招待し、無事に開催することができました。

「川手地区将来プラン」については、本年度はあまり活動を進めることができませんでした。地域の方と地区について話し合う機会があっても、それをホーム全体で共有し、実践しようという行動になかなか移すことができませんでした。来年度は、地域の方々との意見交換の場を積極的に設け、そこで生まれた課題の解決に向け、具体的な活動に取り組めるようにしていきたいです。

4～11 月まではお米を作り販売まで行いました。この活動を通してお米の作り方に関しては、実際にお米を地域の方々と作りながら教わる事が出来ました。また、地域活動の支援として、道普請へ参加し清掃活動の手伝いをさせていただきました。地域の祭りである美人林まつりにも去年に引き続き参加させていただき、お米の販売を行い盛り上げることが出来ました。

【ホーム運営について】

今年度のホーム運営では、昼のミーティング内容を事前に精査し、時間内で完結させること、情報共有を綿密に行うこと、役割を分業し仕事の負担の偏りを減らすことを目標としていました。

ミーティングについては、内容を先に精査することで効率よく進めることができました。また、全体で情報共有を行うことで活動の進捗状況を学生間で把握することができました。しかし、ミーティングや地域活動に参加した人と参加していない人との間で、認識の差が生じることもありました。

役割分担については、上級生に仕事が偏ってしまいました。至急に対応しなければならない仕事はミーティングに参加している人に任せられるという場面が多くみられました。課題として、ミーティングに参加する人が少ないことや同じ人しか来ないことで情報量や仕事量が偏ることが挙げられました。

活動を通して学んだこと

コミュニティと自身の結びつきを持って、アイデンティティを確立し、発揮することで、成長することができました。また、ほりごたつは仲間との貴重な時間を共有でき、自身の居場所を形成できるだけでなく、自然を愛で、のどかさを贅沢に味わうことができました。

興村 幸次（教育学部1年）

今年1年ホーム長として関わらせていただきました。その中でリーダーとして必要な「信頼」をたくさん学びました。信頼されるだけではなく、信頼して任せることも大切だと分かりました。支えてくれたすべての人に感謝の気持ちでいっぱいです！本当にありがとうございました！

丸山 栞里（教育学部3年）

下川手の皆さまのあたたかさを感じ、ホームメンバーとの時間も有意義で、出会いに対する感謝と仲間と共に活動に向かう楽しさを感じています。悩みも話しながら進めていく大切さを知り、自分の成長につながっています。支えてくれている皆さま、いつも本当にありがとうございます。

坂西 和奏（教育学部2年）

私はこれまでの活動を通して、「仲間の大切さ」と「想いに寄り添うことの大切さ」を学びました。地域の課題を解決する際も、地域の方々の想いに寄り添いながら取り組むことが大切であり、その実現には多様な仲間との協力があってこそだと実感しています。

小崎 穂高（農学部4年）

今後に向けて

次年度は、学生のエネルギーを活かすことができるホームづくりに力を入れたいと考えています。学生からの提案が欲しいという声を地域の方にいただくことも多かったので、一人一人が地域のために何ができるのかを考え、地域の方々との意見交換を積極的に行い、そのアイデアを実現させることを目標にしたいです。学生の地域活動への参加率の向上や、やりたいことや新しいことに取り組むことができる環境を目指すことで、より活気のあるホームにしていきたいと思っています。

また、地域資源の活用にも力を入れていきたいと考えています。現段階では、米作りの際にでるわらを活用した納豆づくりや、春に田んぼに発生するザリガニを利用したレシピづくりなどが挙げられており、実現に向けてどのようなことが必要なのかを調べていきたいです。雪や美人林など、まだまだ活かせる資源が下川手地区には沢山あるため、地域やホームの特性を生かした資源の活用法を模索していきたいです。

活動地域より

昨年で、ほりごたつとの交流10周年となりました。下川手集落での活動も米作りから、収穫祭やどんど焼き等の集落行事、年3回の道普請協力など多岐に渡ります。今後も積極的に交流いただき、皆さんの知識と経験の醸成と、併せて集落に活気を与えていただくよう期待しています。

松之山地区下川手集落 志賀 義雄 様

担当教職員より

10月に開催した「ほりごたつ」10周年記念行事には、諸先輩方及びかつて担当された教職員のみなさんが集い、きずなの深さを再認識するよい機会となりました。この素晴らしい伝統を継承しつつ、下川手地区の活性化に向けた新しい発想とアクションを期待しています。

学術情報管理課 棚橋 是之

活動記録（2024年4月～2025年3月）

- 4月 苗代作り
- 5月 道普請
- 6月 田植え・草取り
- 7月 地域活動中間報告会・草取り
- 8月 盆の道なぎ
- 9月 稲刈り
- 10月 脱穀・精米・10周年イベント
- 11月 美人林祭りでのお米販売・道普請
- 12月 ダブルホームシンポジウム
- 1月 さいのかみ
- 2月
- 3月 送別会



6月1日 田植え



1月13日 さいのかみ



ホームの概要

メンバー構成： 1年生9人、2年生6人、
3年生1人、4年生1人、
教員2人、職員1人

活動地域： 阿賀町津川地区

関連団体： 阿賀町役場

ミーティング： 平日昼休み週1回程度

成果物・制作物



①地域実習にて

空き家見学後、空き家の雑草取りをしました



②留学生との交流にて

制作物として、狐のお面を作りました

活動目的と概要

豊かな自然と歴史ある伝統が息づく、阿賀町津川地域の京ノ瀬地区を中心に活動しています。コロナの影響を受け新たな活動指針を立て始めてから3年が経ちました。昨年度から開始したチャレンジ活動や地域の方々との協働による活動を継続しつつ、今後の方向性をさらに明確にしていく時期にありました。また、活動を通じて見えてきた地域課題に取り組むため、地域の行事へ継続的に参加し、地域住民の方々との親交を深めるための具体的な活動内容の検討を進めてきました。

活動目標の達成状況

【地域活動について】

長期的な活動目標は、「地域の方々と触れ合う機会を増やし、地域行事への参加や学生主体のイベント企画によって地域活性化のメンバーの一員となる」「空き家プロジェクトを活動フェーズに移行させ、実際に空き家を活かした活動を行う」の2点でした。1点目はダブルホーム活動の一環として京ノ瀬地区の年中行事に参加ができず、活動の段取りに改善点が見えました。一方で、新潟大学の留学生を地域へ招いて交流するチャレンジ活動を行うことができました。2点目は今年度中に具体的な活動を始めることはできませんでしたが、地域の方と連携し、現地を複数回訪問するなど来年度以降の取り組みの基礎となる活動を行いました。

具体的な目標として「昨年も参加した地域行事で地域の方と交流する機会を継続的なものにする」「秋以降の地域行事のうち昨年度参加できなかったものに参加する」を設定していました。つがわ狐の嫁入り行列には全ての阿賀町拠点ホームから参加者を募って参加し、京ノ瀬地区夏祭りでも地元住民の方と交流することができました。また、新たな活動として秋に同地区「風舟」にて行われたマルシェに参加しました。一方で今年度も秋以降の年中行事に参加できず、課題として残りました。

【ホーム運営について】

長期的な目標は、「学年関係なく意見を言い合える雰囲気づくり、全員が協力して物事に取り組めるような体制づくり、ホーム内で活動目的や目標などの共有、卒業後もシンポジウム等に参加したくなるようなホームにする」でした。具体的な目標は、「ホーム内での交流を増やす、全員で活動するという意識を一人一人が持つ、1人に負担が偏らないようにする」でした。実際のホーム運営としては、新入生一人一人に役割分担をしました。ミーティング報告係といった具体的な役割を振ることで、負担の偏りも少なく、円滑なミーティング、議事録や実習活動の報告・振り返りができました。また、対面ミーティングの増加により、ホーム内での交流が活発になりました。課題としては、昨年度と同じように、参加率の低下が挙げられます。これにより、特定の人だけに仕事を振ることになったり、メール共有がおろそかになっていたりした部分がありました。

活動を通して学んだこと

私は1年間の活動を通して広報の重要性を学びました。地域の方はもちろんのこと、学内外にまだまだ宣伝の余地があると感じています。Uホームのことを知ってもらい活動の幅が広げられるよう、SNSや回覧板の作成に力を入れていきたいです。

増田 美桜（農学部1年）

今年度は昨年度に比べて更に多くの活動を行うことができ、更に充実した活動になったと思います。活動が増えたため計画は大変でしたが、役割分担と協力で多くの活動を達成し、大きな達成感を得られました。後期からはホーム長として不安もありましたが、メンバーの積極的な意見出しに助けられました。

石山 琴美（農学部2年）

行動に移すことの大切さを学びました。私の代のUホームは新しいことにチャレンジする活動が多く、計画している段階で不安なこともたくさんありました。それでもいざ現地活動に移してみると意外とうまくいき、達成感とともに次につながる課題も得ることができました。

佐藤 翔太（経済科学部3年）

この1年間は昨年に引き続き、狐の嫁入り行列に参加することに加え、留学生との交流など新しいことにも挑戦をした1年でした！地区の魅力をさらに見つけ・発信できるようUホームは今後も地区の皆様と一緒に活動を盛り上げていきます！

藤原 功気（経済科学部4年）

今後に向けて

シンポジウムを通して、Uホームでは広報活動においての見直しについての話が出ました。広報活動においては、既にInstagramを活用していますが、これは若い世代への情報発信に活用しており、情報が届く層が限定的であり、検索による情報到達も難しいという課題があるという意見が出ました。一方、紙媒体は地域住民全体に情報を届けられる可能性があると考えました。そこで、回覧板の発行を試行的に開始し、年度初めにメンバー紹介や活動計画、年度末に活動報告を行うことで、地域住民への情報提供を強化する予定です。

昨年度からは新たに始めた空き家プロジェクトについては、今年度は空き家の雑草取りなどの活動を行いました。安全上の理由から本格的な改修作業は行えませんでした。将来的には空き家を活用したイベント開催など、地域活性化に繋がる取り組みを検討しています。

これらの活動を通して、地域住民への情報提供を強化し、空き家を有効活用することで、地域活性化に貢献していくことを目指します。

活動地域より

今年度ふりかえてみて、どうでしたか？春は新入生が国際交流活動に多く反応してくれたことに驚きましたね。これは琴美さんがいたからできたことでした。来年度もUホームの持つ、その年ごとに活動を生み出せる余白をうまくおもしろがって、またひっそりムーブメントをつくりましょう～。

阿賀町津川地域 平原 理紗子 様

担当教職員より

個々の想いが具現化し、活動の幅が着実に広がった一年でしたね。コロナ禍で活動がリセットされましたが、ミーティングや活動を重ねる中でUホームの新たな方向性が定まってきたと思います。これからも「やってみたい」という気持ちを大切に、津川地区を一層盛り上げていきましょう。

国際交流推進課 森口 穂乃花

活動記録（2024年4月～2025年3月）

- 4月 大説明会
- 5月
- 6月 街歩き
- 7月 地域実習（空き家見学、酒造見学）
地域活動中間報告会
- 8月 京ノ瀬夏祭り
- 9月
- 10月 秋のかざふね市
- 11月 留学生との交流
- 12月 ダブルホームシンポジウム
- 1月
- 2月
- 3月 今年度の振り返りと次年度計画のための地域訪問



8月25日 京ノ瀬夏祭り



10月27日 秋のかざふね市



ホームの概要

メンバー構成： 1年生9人、2年生4人、
4年生2人、修士以上2人、
教員2人、職員1人

活動地域： 糸魚川市小滝地区

関連団体： ひすいの郷つくる会
糸魚川市役所

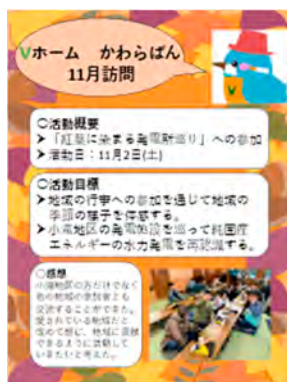
ミーティング： 平日昼休み週1回程度
(試験期間中はお休み)

成果物・制作物



笹寿司

地域の郷土料理である笹寿司。9月訪問で地域の方から作り方を教わり、10月の新大祭で笹寿司を販売しました。新大祭は大盛況で、たくさんの方に地域の特色の一つである笹寿司を味わってもらいました。



かわらばん

訪問ごとに内容や感想をまとめたかわらばんを作成しました。今後は地域の方にも共有することを検討しています。

活動目的と概要

糸魚川市小滝地区は、地質学的価値を認められた自然の見どころが複数あり、限られたヒスイ産出地の中の一か所です。小滝地区やそこを訪れた方との交流を深めることで小滝地区をよく知り、小滝地区の周辺部からの交流人口や認知を増加させることを目的として活動しました。また、各訪問時にかわらばんを作成・共有することで小滝地区の魅力を再確認したり、パンフレットの作成に活用したり、SNSを使って活動を可視化することで小滝地区の魅力を発信することを目標としました。

活動目標の達成状況

【地域活動について】

Vホームは今年度、「①今年度は、小滝地区での活動を中心にしながら、糸魚川市街のイベントへの参加・出店もしていきたい。②新大祭での出店や、昨年に引き続き笹寿司作りを実行して、Vホームならではの楽しい活動を探求していきたい。③円滑な連携を日頃から心掛け、地域訪問でお会いする際には積極的にお話しして信頼を築き、地域の方からたくさんのことを吸収したい」などの目標を立てて活動しました。

①について、今年度に糸魚川市街のイベントに参加はできませんでしたが、糸魚川市役所の地域定住課の担当者の方との座談会で小滝地区外へ活動を広げていくことに賛同いただけたので、来年度以降は達成したいと思います。②について、新大祭に出店し、笹寿司を販売しました。地域の方にもお越しいただき、手伝っていただきました。③について、地域の方と連携し、昨年と同様に夏休みには泊まりがけで訪問し、新大祭では新潟大学まで地域の方をお呼びして笹寿司を販売するなど、充実した活動の中でたくさんの学びがありました。

【ホーム運営について】

「キャンパスの異なる学生がいること、また、家からでも気軽に参加できるようにすることからオンラインも活用したハイブリッド型のミーティングを継続する。また、前年度では活動を急遽増やす事例があったことから定期的に計画を見直し、活動内容の計画性を上げていく」ことを目標にホーム運営を行いました。

オンラインを活用したミーティングにより、長期休暇中の帰省などを気にせず、定期的なミーティングを継続して行うことができました。来年度も引き続き続けていきたいと思っています。活動内容の計画性については、早い段階から計画するように心がけてはいたものの、地域の方との日程調整に時間がかかってしまったり、活動内容の決定が遅れてしまったりすることがありました。しかし、2回の活動を同時に考え、地域訪問をまとめるなど工夫できたところもあったと思います。

活動を通して学んだこと

ダブルホーム活動に参加して、他者と話し合いながら課題を解決していくための対話力と課題解決力を学ぶことができました。また、地域の方々と交流することで、その地域について学べただけでなく、異なった年代の方の価値観を知ることができ、課題解決力の増進につながりました。

福田 陸真（農学部1年）

ダブルホーム2年目であった今年度は、主体的に活動を進める中で活動には地域の方の協力がなくてはならないものだと感じました。今年度まで築いた地域との関係性を来年度以降も継続・発展させていきたいです。また、学生間の仲も楽しい活動、良い雰囲気づくりにつながりました。

宮崎 優（教育学部2年）

この一年間の活動を通し、学部を越えて地域とともに活動することの意義や地域の抱えた課題に対する向き合い方を学ぶことができました。地域と学生との相互の交流が大切であると考え、特に新大祭での出店を通して地域の魅力を伝えることができる交流が必要だと感じました。

永島 祐輝（農学部1年）

学生どうしの意見交換を例年以上に行い、大学生ならではの視点を少しずつ織り込む経験ができたものと考えます。また、新大祭への笹寿司出店をはじめ、昨年度の挑戦・学びを活かし、更に新しさや賑やかさを兼ね備えた活動を行い、次年度以降の礎となるような1年間となりました。

木村 駿斗（経済科学部4年）

今後に向けて

今年度は、昨年度と同じような活動に加え、笹寿司作りを学んだ後に新大祭での笹寿司の出店を行い、より有意義な活動を行うことができました。また、今年は小滝ウォーキングの代わりに発電所巡りをするなど、地域についてより知るということを重視した活動を行いました。

来年度からは、今年度の反省を活かし、地域の方たちにも私たちのことをより知ってもらうことを目標としたいです。具体的に言うと、私たちのプロフィールを書いたものを地域の方たちに贈り、また地域の方たちにも似たようなものを書いていただくことで、お互いを理解し、より活動に対して有意義なことができるようになって考えています。また、地域の方たちがおっしゃっていた、継続性のある活動をするために、それぞれの活動同士の繋がりを意識していきたいです。

加えて、今年度は報告会やシンポジウムの準備などにおいて、期限ギリギリまで準備をしてしまったり、話し合いが遅くなってしまったりしたため、来年度からはもっと時間に余裕を持った活動にしていきたいと思います。

活動地域より

小滝地区での活動ありがとうございます。今後の活動では、地域のイベント以外に新しい試みを提案してほしいです。高齢化が急速に進み地域内でのイベント存続も危ぶまれます。継続かつ誰でも参加できるような提案をお願いします。又、限られた人数で運営するため、年間計画を早く提示してほしいです。

小滝地区公民館 上杉 世津子 様

担当教職員より

今年度は、2年生を中心に1年生も積極的に役割を担って、にぎやかに活動していたのが印象的でした。久々に新大祭で笹寿司を販売できたことも良かったです。来年度さらにステップアップできるよう、楽しく、積極的に、そして目的意識を持って引き続き活動に取り組んでください。

学術情報管理課 藤原 幸生

活動記録（2024年4月～2025年3月）

- 4月 大説明会
- 5月
- 6月 地域訪問(たかなみまつり)
地域訪問(家庭訪問、フォッサマグナミュージアムなど)
- 7月 地域活動中間報告会
- 8月
- 9月 地域訪問(笹寿司作り)
- 10月 新大祭出店(笹寿司)
- 11月 地域訪問(発電所巡り)
- 12月 ダブルホームシンポジウム
- 1月
- 2月
- 3月 地域訪問(レクリエーション、市役所訪問)



6月29日 小滝川ヒスイ峡



10月20日 新大祭

新潟大学ダブルホーム 2024 年度 活動報告書

発行日 2025 年 8 月 28 日
発行者 新潟大学 教育基盤機構 未来教育推進コア
グローバル共修ユニット ダブルホーム支援室

〒950-2181 新潟県新潟市西区五十嵐 2 の町 8050 番地
総合教育研究棟 B454

TEL : 025-262-6788
FAX : 025-262-6991
E-mail: home@ge.niigata-u.ac.jp

印刷 富士印刷株式会社



新潟大学ダブルホーム

ソーシャルメディアをチェック！

ダブルホームの活動の様子を配信中！

Homepage



X



Instagram



Facebook



リサイクル適性 

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。